

令和 8 年度第 2 回上尾市地域公共交通活性化協議会次第

日 時 令和 8 年 8 月 5 日（水）

午後 2 時 0 0 分から

場 所 上尾公民館 5 0 3 講座室

1 開 会

2 報告事項

（1）業務実施計画について

（2）策定スケジュールについて

（3）アンケート結果（地区別分析）について

①公共交通に関する市民アンケート

②市内循環バス「ぐるっとくん」利用者アンケート

3 その他

4 閉 会

令和8年度 上尾市地域公共交通活性化協議会名簿

区 分	委員氏名	所 属	役職
法第6条第2項 第2号委員	山科 和仁	東武バスウエスト株式会社	
	田沼 健一	朝日自動車株式会社	
	鈴木 義和	丸建つばさ交通株式会社	会計
	鈴木 貴大	株式会社協同バス	
	山口 正史	上尾地区タクシー協議会	
	関根 肇	一般社団法人埼玉県バス協会	
	藤田 貢	一般社団法人埼玉県ハイヤー・タクシー協会	
	児玉 憲一	国土交通省大宮国道事務所	
	武田 敦弘	埼玉県北本県土整備事務所	
	近藤 隆俊	東日本旅客鉄道株式会社熊谷事業本部	
	新井 裕之	埼玉新都市交通株式会社	
法第6条第2項 第3号委員	戸崎 貴夫	上尾警察署交通課	
	小幡 雄人	上尾市自治会連合会	会計
	刀根 正克	上尾市いきいきクラブ連合会	
	青木 明美	市民公募	
	小嶋 秀雄	市民公募	
	久保田 尚	埼玉大学名誉教授	副会長
	野房 宏規	国土交通省関東運輸局埼玉運輸支局	
	大嶋 清泰	埼玉県企画財政部交通政策課	
	村川 宗央	さいたま市都市局交通政策部交通政策課	
	向井 一哲	桶川市秘書企画部企画調整課	
法第6条第2項 第1号委員	堀部 弘幸	上尾市行政経営部	
	田中 友紀	上尾市健康福祉部	
	東 邦彦	上尾市都市整備部	
	畑 健二	上尾市市民生活部	会長

※区分の欄の「法」は、地域公共交通の活性化及び再生に関する法律を指します。

次期上尾市地域公共交通計画策定および現行計画の実施支援業務 業務実施計画書

1. 本業務の目的

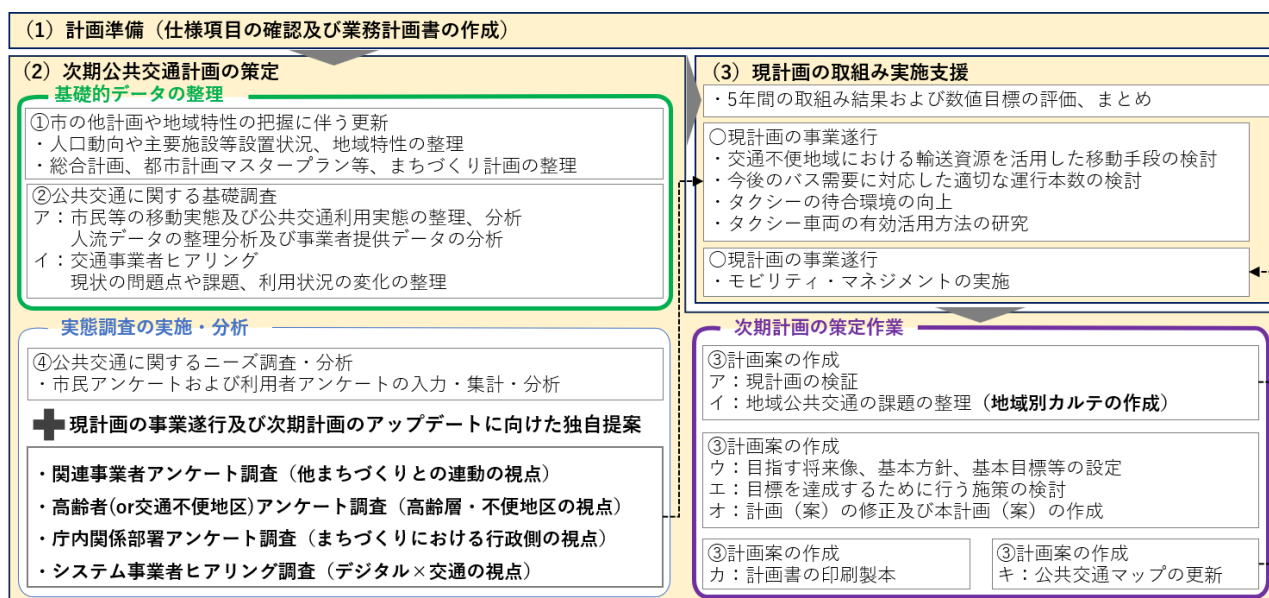
本業務は、「上尾市地域公共交通計画」（令和 4 年 3 月策定）（以下「交通計画」という。）が令和 8 年度末に計画期間の終了を迎えることから、現計画を見直し、令和 9 年度を計画初年度とする次期計画の策定を支援するものである。

策定にあたっては、少子高齢化や運転手不足といった社会問題に的確に対応すべく、総合計画等との連動性を意識しながら策定するものとする。

また、「地域公共交通の活性化及び再生に関する法律」及び「地域公共交通の活性化及び再生の促進に関する基本方針」で規定する交通計画の作成に関する基本的な事項等を網羅することとし、あわせて国庫補助金の要件となる記載事項に留意するものとする。

2. 委託期間

契約締結日から令和 9 年 3 月 31 日（水）まで



業務フロー図

3. 業務対象範囲

上尾市内

4. 計画期間

令和 9 年度から令和 13 年度まで

5. 業務内容

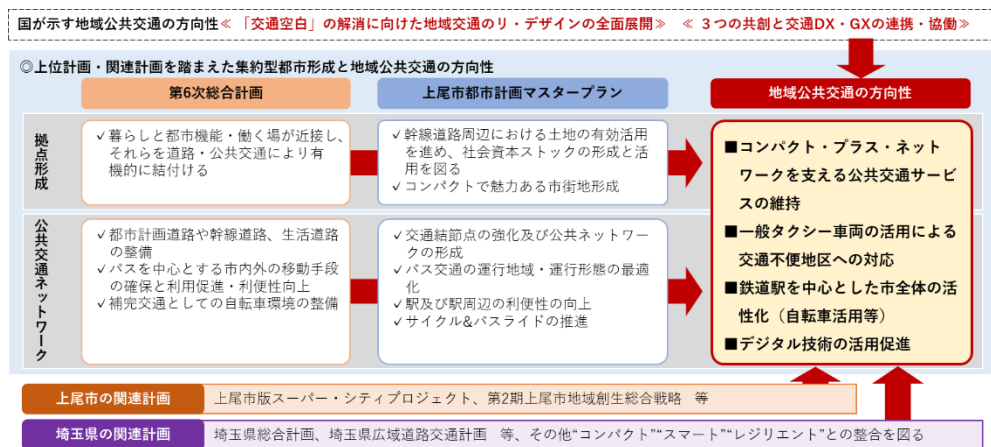
(1) 計画準備

業務概要、実施方針、業務工程表、業務の体制、打合せ企画、照査計画等を記した業務計画書を作成する。

(2) 次期公共交通計画の策定

① 市の他計画や地域特性の把握に伴う更新

市のまちづくり計画の目標達成に向けた、上位関連計画・事業と連携し、国の動向及び社会情勢を踏まえ、本計画の方向性を整理する。



上位関連計画整理イメージ

また、基礎的データの整理と GIS 活用による現況の可視化を行い、計画課題のエビデンスとして活用する。

項目		調査内容
基礎的データ	人口・世帯数	- 人口・地域別人口、年齢3区分、世帯数、将来人口、DID人口 - 人口密度、人口増減率、高齢化率 - 高齢者独居世帯の把握（GISの活用）
	交通利用特性	自動車登録台数、運転免許保有状況、免許返納状況
	施設立地・生活圈	- 都市基盤整備状況、整備スケジュール - 生活便利施設立地と徒歩圏域、バス停からの距離
活用資料		国勢調査、市統計、住民基本台帳、第6次総合計画、総合戦略、国土強靱化地域計画、都市計画マスタープラン等

加えて、机上調査より地域輸送資源および外出支援サービス等の整理を行い、連携可能性の把握に向けた調査を提案する。

項目	調査内容
公共交通の運行状況	- 鉄道、高速バス、ニューシャトル、路線バス、市内循環バス[ぐるっとくん]、一般タクシーにおける運行ルート、運行本数、運賃、利用状況、運行収支・財政負担額、バリアフリー対応等 - これまでの再編経緯の整理（タクシー含む）
公共交通以外の移動サービスの状況	- 外出支援、スクールバス、企業等の民間無料送迎バス等の実態把握 - 運転免許証自主返納等の利用実績把握

② 公共交通に関する基礎調査

ア 市民等の移動実態及び公共交通利用実態の整理・分析

基礎的データの整理と GIS 活用による現況の可視化を行い、計画課題のエビデンスとして活用する。

項目		調査内容
基礎的データ	交通利用特性	・通勤通学流動、代表交通手段及び端末交通手段構成 ・公共交通利用者数、各駅勢圏（町丁目別）の分析 ・バス停別利用者数
活用資料		・RESAS、東京都市圏パーソントリップ調査等既存データ ・交通事業者提供乗降実績データ、KDDI Location Analyzer、BusGOデータ 等

イ 交通事業者ヒアリング

経営上・運行上の問題点に加え、新大宮上尾道路の開業を見据えた構想について把握し、具体事業に反映する。

項目	調査内容
調査方法	事前にアンケートを送付し、回収後ヒアリングを想定
〔鉄道〕 JR東日本 「新交通」 埼玉新都市交通	・利用者の特性や近年の推移状況 ・経営上、運行上の問題点 ・利用促進事業やイベント、観光施策の取組み ・駅利用者から寄せられている意見 ・路線バスやぐるっとくんの連携に関する意見・要望
〔路線バス〕 朝日自動車、東武バスウエスト、丸建つばさ交通	・利用者の特性（路線別）や近年の推移状況 ・バス利用者等から寄せられている声 ・路線の再編に対する考え方、当面考えている利用促進策 ・キャッシュレスやバスロケーションシステム等、デジタル技術の取入れ状況 ・他地域と比べた上尾エリアの特徴・課題 ・市内循環バス等他交通機関との機能分担について
〔市内循環バス〕 「ぐるっとくん」委託業者（協同バス、東武バスウエスト、朝日自動車、丸建つばさ交通）	・バス利用者等から寄せられている声 ・改善が必要なコースやダイヤ ・他地域と比べた上尾エリアの特徴・課題 ・民間路線バス等他交通機関との機能分担について
〔タクシー〕 飛鳥交通、上尾交通、富士交通、伊奈交通、上尾タクシー	《一般タクシー》 ・経営上の問題点（利用者数、料金設定 等） ・運行上の問題点（人手不足、車両更新に向けた課題・意向） ・タクシー利用者の要望、意見 ・補助制度について

ウ 関連事業者アンケート調査

交通事業者以外の移動サービスの把握と、他分野との連携の視点から関連事業者アンケート調査を実施し、協働の可能性を検討する。

項目	内容
調査方法	・事前に調査票を送付し、必要に応じて後日ヒアリング
対象者	・医療施設、商業施設、社会福祉協議会、観光協会、企業送迎実施社 等
調査項目	・無料送迎等の施設利用者のサービス向上に向けた取り組み状況 ・観光や商業などまちづくりを取り巻く現状、問題点 ・子育て支援、高齢者等移動支援サービスの実態 ・買い物支援、移動販売等の実態・拡大の可能性 ・公共交通と協力・連携した取り組みや事業の可能性 ・企業送迎、施設送迎バスとの連携の可能性 等

エ 高齢者アンケート調査

新しい交通手段の導入等のニーズを把握するためアンケート調査を実施し、ターゲットに応じたアプローチ策を検討する。

項目	調査内容
調査方法	・紙面により郵送配布・郵送回収を想定
対象者	・65歳以上の高齢者を対象に、1,000部配布を想定
調査項目	・普段の移動手段と公共交通の利用状況、家族送迎の負担状況、待合空間の充実度 ・上尾市の公共交通に対する認知度および満足度 ・公共交通を利用するようになったきっかけ、公共交通を利用しない理由 ・公共交通の利用する際に困ることの有無 等

オ 庁内関連部署アンケート調査

まちづくりや高齢者支援などの観点からみた公共交通の課題の把握や他分野連携・共創の可能性を把握する。

項目	調査内容
調査方法	・各課へメールの送信・回収（必要に応じてヒアリング）
対象者	・行政経営課、都市計画課、福祉総務課、健康増進課、環境政策課等
調査項目	・他分野の視点からみた地域公共交通に関する課題 ※施策・事業検討段階でも随時ディスカッションを実施

カ システム事業者ヒアリング調査

AI オンデマンドに関するコスト面や運用面を把握するため、システム事業者ヒアリングを実施し、上尾市に適した最適なシステムを選択するための材料とする。

項目	調査内容
調査方法	・事前に調査票を送付し、必要に応じて後日ヒアリング
対象者	・AIオンデマンド交通システムを提供している企業5社程度
調査項目	・システムの構築及び導入に係るイニシャルコストとランニングコスト ・上尾市と同規模自治体における導入実績 ・運転手講習や市民説明会等のサポート面 ・月次レポートの策定やダッシュボードによるグラフ化の有無 ・パッケージ化されているサービス内容とオプションサービスの内容 ・企業の強みと弱み 等

③計画（案）の作成

ア 現計画の検証

施策推進上の課題とともに、定性評価（貢献度評価）で施策の有効性や必要性も改めて見つめなおすことで次期計画における効果的な推進施策の整理に活用する。

イ 地域公共交通の課題の整理

地域別や属性別によるクロス集計を行い、交通不便地域の洗い出し及び計画課題のエビデンスとしての活用、評価指標への採用について検討する。

また、各交通モードの調査結果を地域別に一元化した「地域別カルテ」を作成し、人口等の特性が異なる各地域の実情に則した課題を抽出する。

高齢者独居世帯の多いエリアの把握についても GIS 分析にて行い、各種調査結果と照らし合わせながら交通不便地区を可視化する。

《市民アンケート調査の分析》

クロス集計の基本スタイルとしては、都市計画マスタープランの地域別構想で整理されている

“6地域別”に準じて分析を行う。

利用状況については、年齢ごとに傾向が異なることが予測されるため、設問に応じて年齢別クロスも実施する。

《地域公共交通利用者調査の分析》

市内循環バス「ぐるっとくん」の利用者を対象とした再編アンケート調査を現在実施しており、市民アンケート同様地域別および年齢別によるクロス集計を想定する。

また、利用状況など市民アンケート調査と重複する設問も設定されているため、市民アンケート調査の補完データとしての活用や傾向比較による分析を行う。



ウ 目指す将来像、基本方針、基本目標等の設定

第6次上尾市総合計画等との連動を意識しながら、各アンケート調査を踏まえながら、広域性（マクロの視点）や地域性（ミクロの視点）に留意しつつ、基本的な方針と、公共交通が果たす役割・機能を明確化による効果的かつ効率的なネットワークを検討し、基本方針と計画目標を設定する。

また地域公共交通は、「市民の暮らしを守る」「ウェルビーイングなまち」を図るための一つの手段として認識しており、公共交通を再構築していく過程で地域が抱える問題の解消につながるものでなければならないと考えている。そのため、公共交通を残すことを目的化せず、まちや地域を今後どうしていきたいか、またその実現に資する利便性と持続可能性の高い交通のあり方を検討する。

エ 目標を達成するために行う施策の検討

網羅的ではない戦略的な事業構築と、上位・関連計画と整合を図った数値目標を定め、計画の評価・管理方法を設定する。

《実施事業の検討》

本計画期間は5年間という短期的な計画となるため、各種調査より設定した公共交通の方向性と課題に基づき、この5年間で重点的に取組むトピック事業を設定することが大事になるため、網羅的にすべてを事業に位置付けるのではなく、10年後・20年後のロードマップを描き、短期的に取り組むべき戦略事業を位置付ける。

《数値目標の設定》

数値目標は、国の手引きで必須指標である利用者数、収支率、公共交通への公的資金投入額に加え、「第6次上尾市総合計画」や「上尾市都市計画マスタープラン」等の上位・関連計画で掲げられる公共交通関連の目標値と整合を図りながら検討する。

《計画の評価方法の検証》

PDCAサイクルによる評価・検証を行うために、定めた目標値の評価方法や各年度実施する調査等も明記する。

公共交通に関係する市民・交通事業者・事務局、それぞれの役割を明記した上で、共通認識を持ち、一丸となって取組む構図とする。

オ 計画（案）の修正及び本計画（案）の作成

地域公共交通計画書および計画書概要版の作成にあたっては、住民や事業者、行政が協働し、地域公共交通の方向性や実施事業、役割分担等を理解し、実践することが重要であるため、デザイン性がある表紙（イラストや基本構想等）や、データや現地写真の活用、先進事例の紹介等わかりやすさや、取組み内容の理解しやすさ等に留意した構成とする。

カ 公共交通マップの更新

住民の皆様に分かりやすく情報が伝わるよう視認性・可読性に配慮したデザインにする。

(3) 現計画の取組み実績支援

現計画の評価と合わせて各種実態調査から現計画の事業を推進し、次期計画へとアップデートする戦略的事業を位置付ける。

基本施策1 公共交通利用環境の向上		R6時点の進捗評価！！	《推進方法》	《次期計画》
1-1	駅におけるバス案内の強化、見やすさの向上【重点】	▲	■交通不便地域における輸送資源を活用した移動手段確保の検討 ・これまでの検討経緯と本業務で実施する調査より事業を推進 <u>関連調査</u> ----- ○地域輸送資源の現状分析 ○交通事業者ヒアリング ○高齢者（or交通不便地区）アンケート調査	現計画の評価と合わせて、次期上尾市地域公共交通計画へ位置付ける戦略的な事業を整理
1-2	モビリティ・マネジメントの実施【重点】	○		
1-3	バス情報の高度化	▲		
1-4	ICカード・キャッシュレス決済の導入の検討	○		
1-5	障害者割引運賃制度の実施	○		
1-6	交通不便地域における輸送資源を活用した移動手段確保の検討	▲		
基本施策2 市内循環バスの見直し			■東大宮駅・桶川駅への乗り入れ ・東大宮駅への接続ニーズと交通事業者の意向により事業を推進 <u>関連調査</u> ----- ○交通事業者ヒアリング	
2-1	市内循環バスの再編検討【重点】	○	■今後のバス需要に対応した適切な運行本数の検討 ・新たな移動手段の検討と合わせて、バス交通の本数のみならず、財政面から持続可能性を考慮し事業を推進 <u>関連調査</u> ----- ○市民等の移動実態及び公共交通利用実態の整理・分析	
2-2	東大宮駅・桶川駅への乗り入れ	▲		
2-3	市内の新たな施設へのアクセス性の確保	—		
基本施策3 民間路線バスの維持・拡充			■タクシーの利用促進 ・これまでの検討経緯と本業務で実施する調査より事業を推進 <u>関連調査</u> ----- ○交通事業者ヒアリング ○システム事業者ヒアリング	
3-1	今後のバス需要に対応した適切な運行本数の検討【重点】	▲		
3-2	ノンステップバスの導入促進	—		
3-3	バス停の利用環境の整備、改善	▲		
基本施策4 タクシーの利用促進				
4-1	タクシーの待合環境の向上	▲		
4-2	タクシー車両の有効活用方法の研究	▲		

現計画の取組み実績

業務工程表

業務開始から計画書作成のアウトプットを事前にイメージ・共有するとともに、仮説検証型にて業務を遂行し、上尾市地域公共交通会議での協議を踏まえながら、効率的な調査の実施、目指すべき方向性の整合を図り、『第6次上尾市総合計画の将来都市像』の実現に向けた施策立案を行い、実施につなげる。

また、事務局とのコミュニケーションを大事に、交通会議における各回の議題を想定しながら、逆算した業務遂行を行う。

[illegible]

公共交通に関する市民アンケートおよび 市内循環バス「ぐるっとくん」利用者アンケート 結果について

1. 公共交通に関する市民アンケート	- 1 -
(1) 調査概要.....	- 1 -
(2) 調査概要まとめ	- 2 -
①自家用車依存について	- 2 -
②普段の外出について	- 3 -
③よく行く外出先について	- 5 -
④公共交通の利用状況	- 6 -
⑤満足度	- 8 -
⑥近年の取組みについて	- 18 -
⑦今後の公共交通のあり方について	- 21 -
⑧タクシーの有効活用について	- 24 -
2. 市内循環バス「ぐるっとくん」利用者アンケート	- 27 -
(1) 調査概要.....	- 27 -
(2) 調査概要まとめ	- 28 -
①ぐるっとくんについて	- 28 -
②ぐるっとくん運行見直しについて	- 31 -

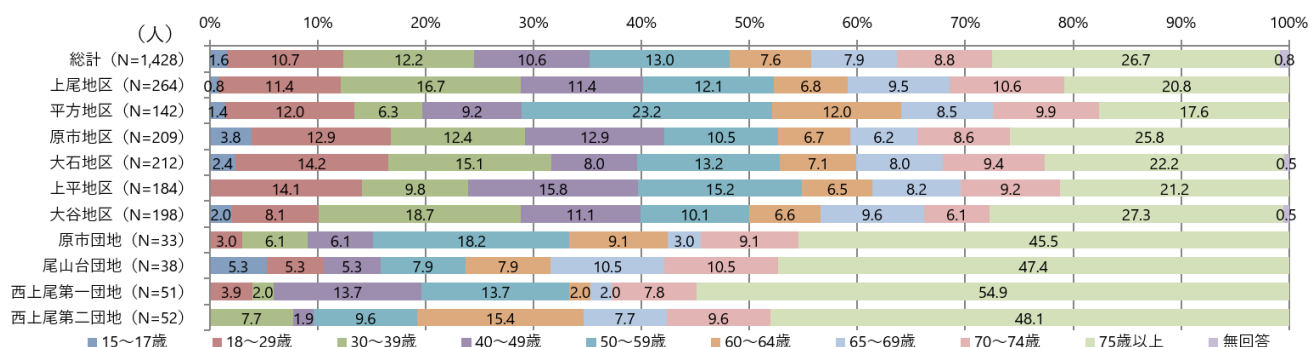
令和 8 年 7 月
上尾市

1. 公共交通に関する市民アンケート

(1) 調査概要

対象者	・ 満 15 歳以上の市民 4,000 人（無作為抽出）						
主な調査項目	・ 属性（居住地、年齢、職業、運転免許保有状況及び運転免許返納意向） ・ 日常生活の移動実態・公共交通の利用実態と満足度・意識・要望 ・ 公共交通の近年の取組み、今後あり方・タクシーの有効活用について						
調査方法	・ 郵送による配付・回収、Web による回答を併用						
調査期間	・ 令和 7（2025）年 12 月 10 日～12 月 29 日						
回答数	・ 1,428 票（回収率 35.7%）						
内訳		属性	実数	割合	属性	実数	割合
	性別	男性	659	46.1%	女性	685	48.0%
		その他	6	0.4%	無回答	78	5.5%
	年齢	15～17 歳	23	1.6%	18～29 歳	153	10.7%
		30～39 歳	174	12.2%	40～49 歳	152	10.6%
		50～59 歳	186	13.0%	60～64 歳	108	7.6%
		65 歳～69 歳	113	7.9%	70～74 歳	126	8.8%
		75 歳以上	381	26.7%	無回答	12	0.8%
	職業	生徒・学生	76	5.3%	会社員・公務員・団体職員	477	33.4%
		自営業	54	3.8%	農業	5	0.4%
		パート・アルバイト	185	13.0%	専業主婦（主夫）	197	13.8%
		無職	349	24.4%	その他	59	4.1%
		無回答	26	1.8%			
	地区	上尾地区	264	18.5%	平方地区	142	9.9%
		原市地区	209	14.6%	大石地区	212	14.8%
		上平地区	184	12.9%	大谷地区	198	13.9%
		原市団地	33	2.3%	尾山台団地	38	2.7%
		西上尾第一団地	51	3.6%	西上尾第二団地	52	3.6%
		無回答・不明	45	3.2%			

※構成比は小数点以下第 2 位を四捨五入しているため、合計値が 100%とならない場合があります。



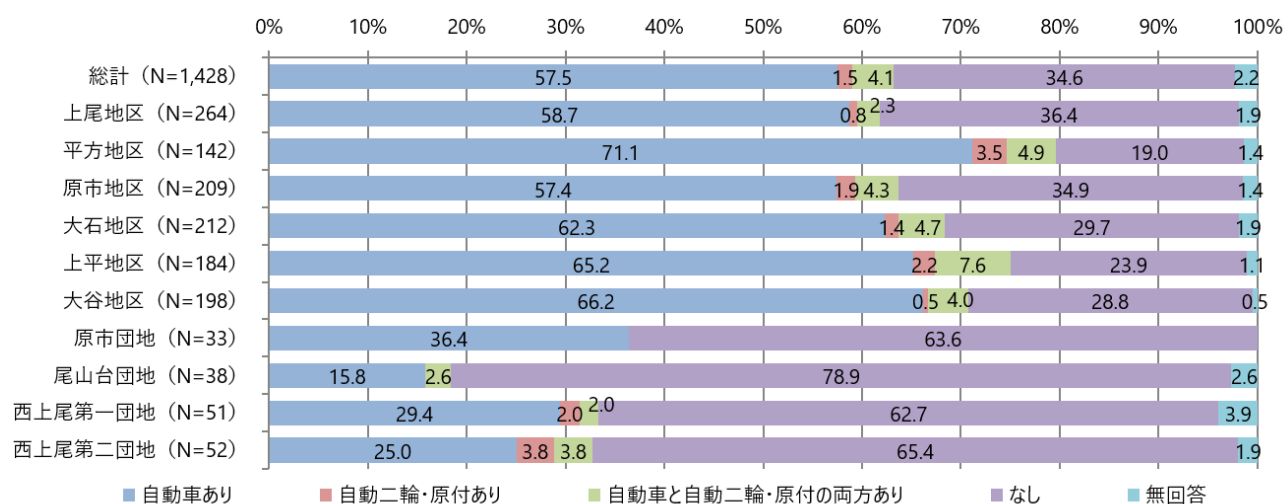
地区別年齢構成

(2) 調査概要まとめ

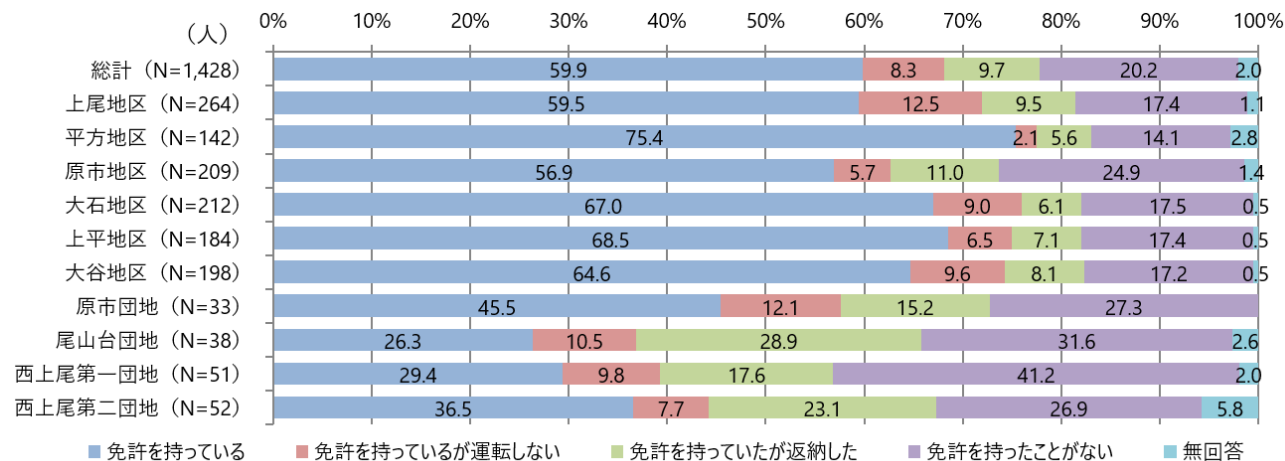
①自家用車依存について

○自動車の保有状況・自動車免許の保有率ともに全体の約7割が自動者及び免許を所有していると回答しており、「平方地区」など駅から離れているエリアの所有率が他地域に比べ高くなっている。免許返納については団地に居住されている方の割合が他地区に比べ高くなっており、高齢の方の居住が多いことが推察される。

■自家用車所有状況



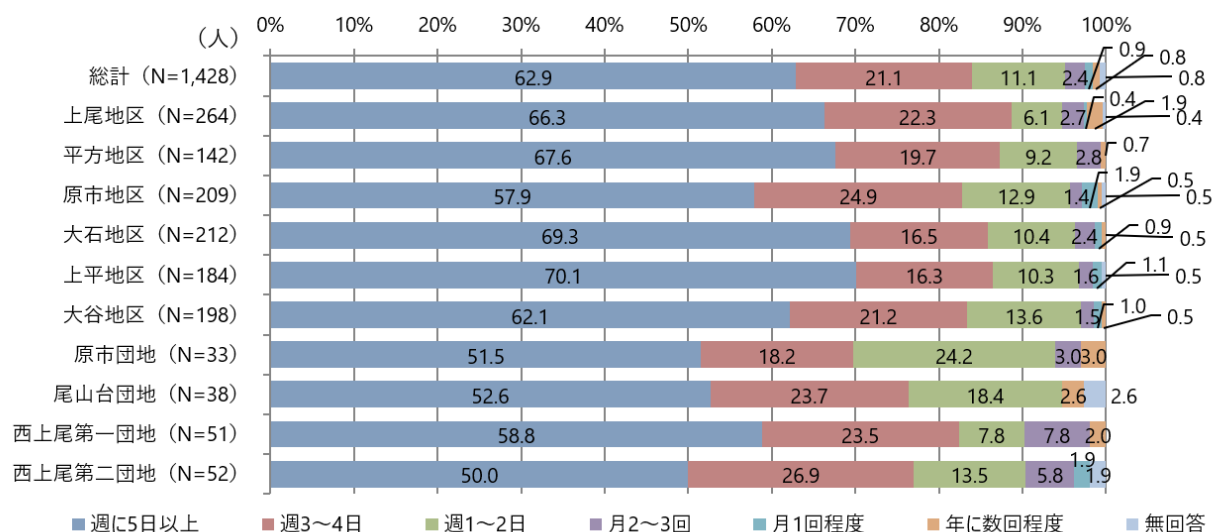
■免許保有状況



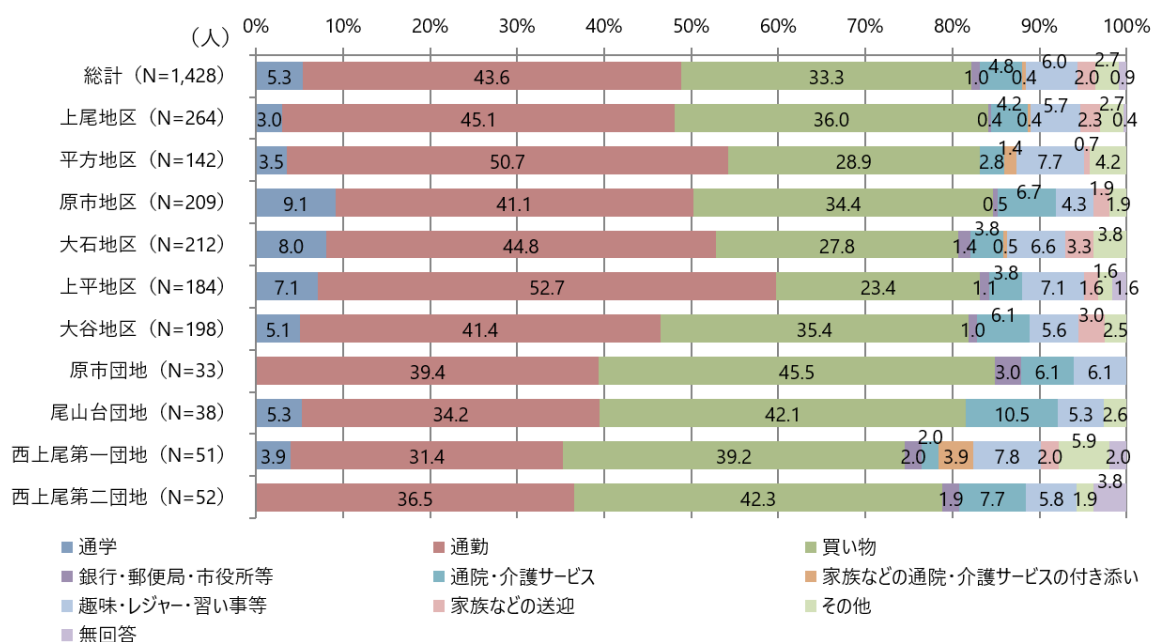
②普段の外出について

- 【普段の外出】「週に5日以上」が62.9%と最も多く、次いで「週3～4日」が21.1%となっており、平日含め日常的に移動していることが推察される。
- 【外出の目的】「通勤」が43.6%最も多く、次いで「買い物」が33.3%となっているが、団地居住者については「買い物」「通勤」と順に多くなっており、居住者の属性が異なっていることが推察できる。
- 【外出の時間帯】「行き」は午前中、「帰り」は午後の回答が多いが、時間帯は分散傾向にありである。「11時～14時」については行きも帰りも移動需要が存在しており、交通機関の充実が必要と推察できる。

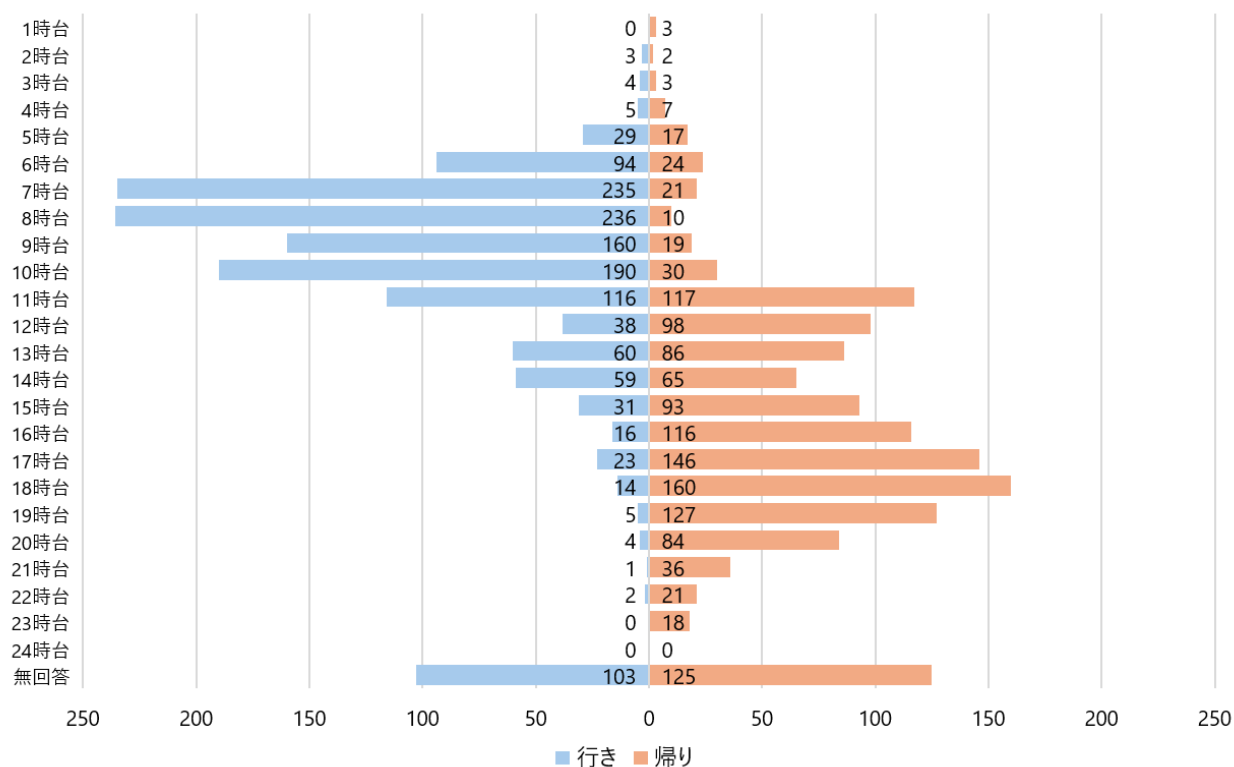
■普段の外出（外出回数）



■普段の外出（外出目的）



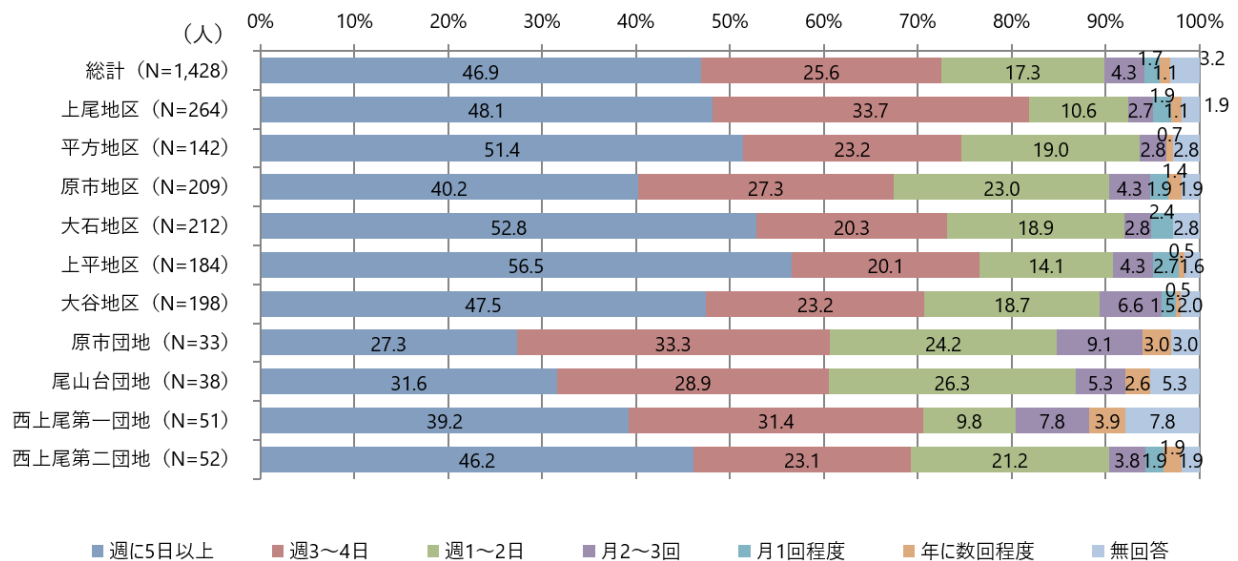
■外出時間帯（一番行く外出先）



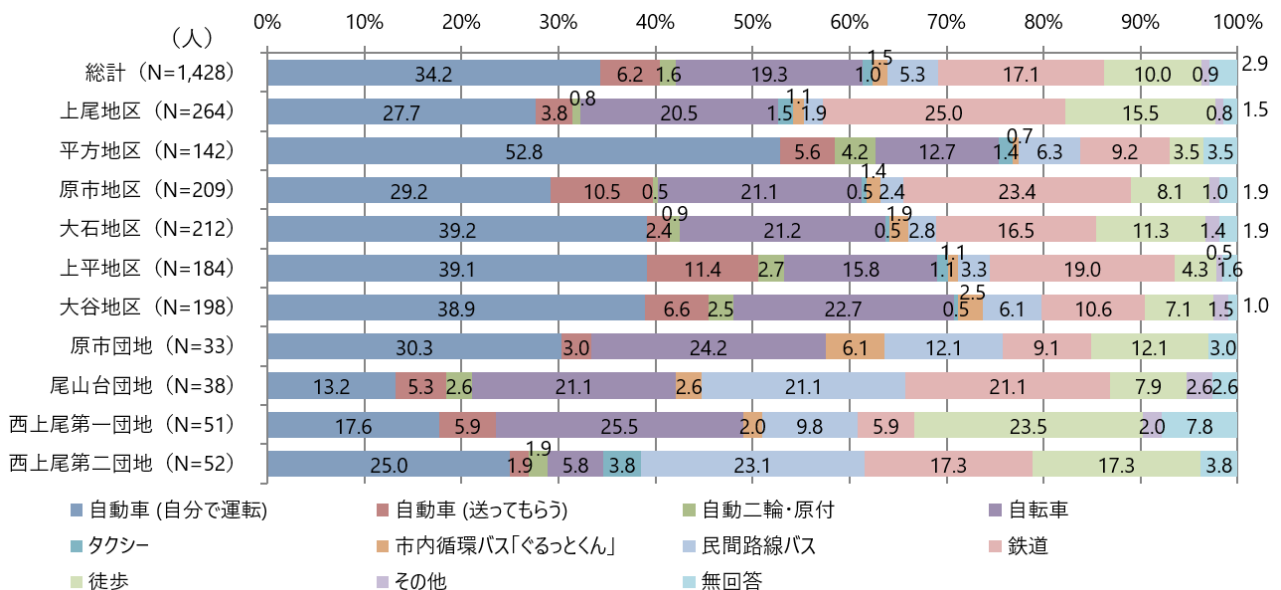
③よく行く外出先について

- 【よく行く外出先の回数】「週に5日以上」が46.9%と最も多く、次いで「週3～4日」が25.6%となっており、平日含め日常的に移動していることが推察される。
- 【外出の目的】「通勤」が43.6%最も多く、次いで「買い物」が33.3%となっているが、団地居住者については「買い物」「通勤」と順に多くなっており、居住者の属性が異なっていることが推察できる。
- 【交通手段】「自動車（自分で運転）」が34.2%と最も多く、次いで「自転車」が19.3%となっている。また、団地居住者については他地区に比べて「民間路線バス」利用割合が多くなっている。

■外出回数（一番行く外出先）



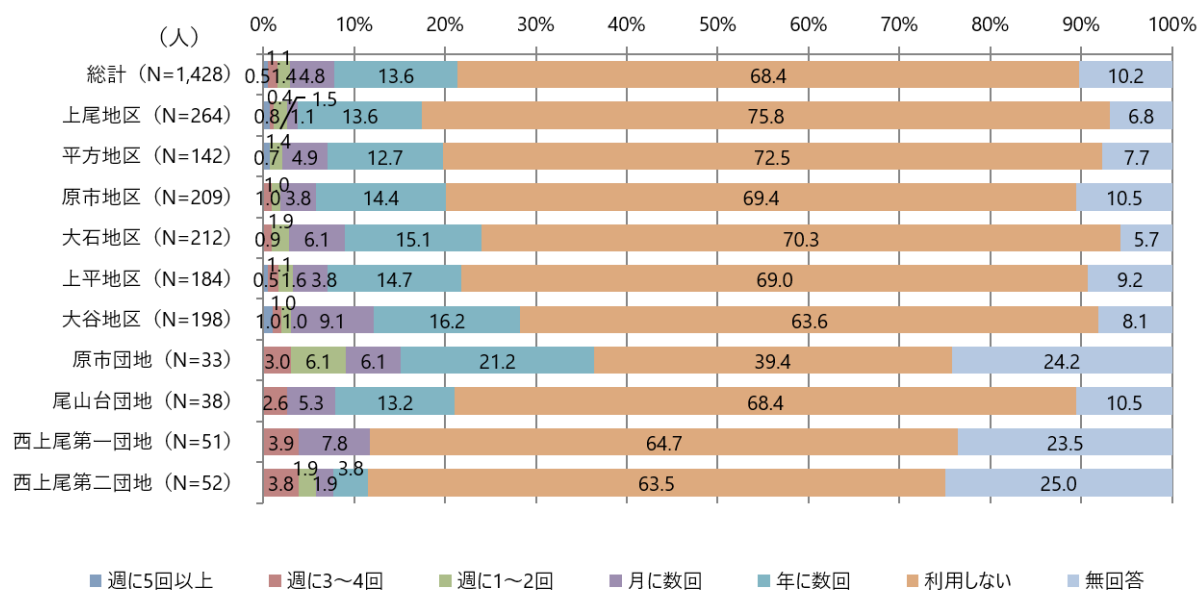
■交通手段（一番行く外出先）



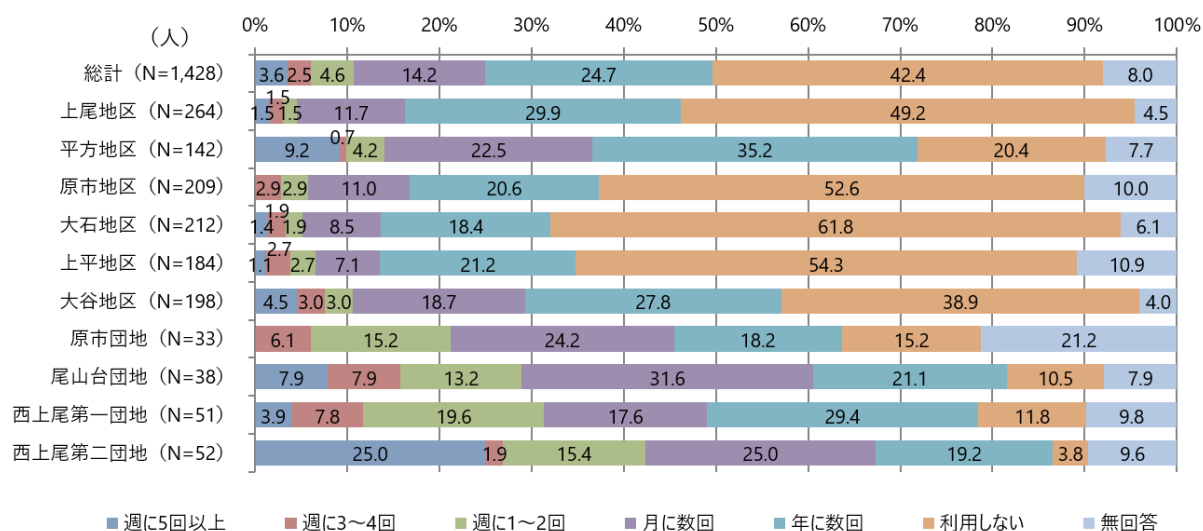
④公共交通の利用状況

- 【ぐるっとくんの利用状況】「月に数回以上」の回答が約1割となっているが、大石・大谷地区は他地区に比べて若干数多い。
- 【民間路線バスの利用状況】「月に数回以上」の回答が約2割となっており、団地居住者については約5割近くとなっており、ぐるっとくんと機能分担ができていると推察できる。
- 【鉄道の利用状況】「週に3～4回」の回答が約2割となっており、日常的に広域で移動している方が少ないことが推察できる。
- 【タクシーの利用状況】については「年に数回」の回答が約9割となっており、移動手段として選択されていない。

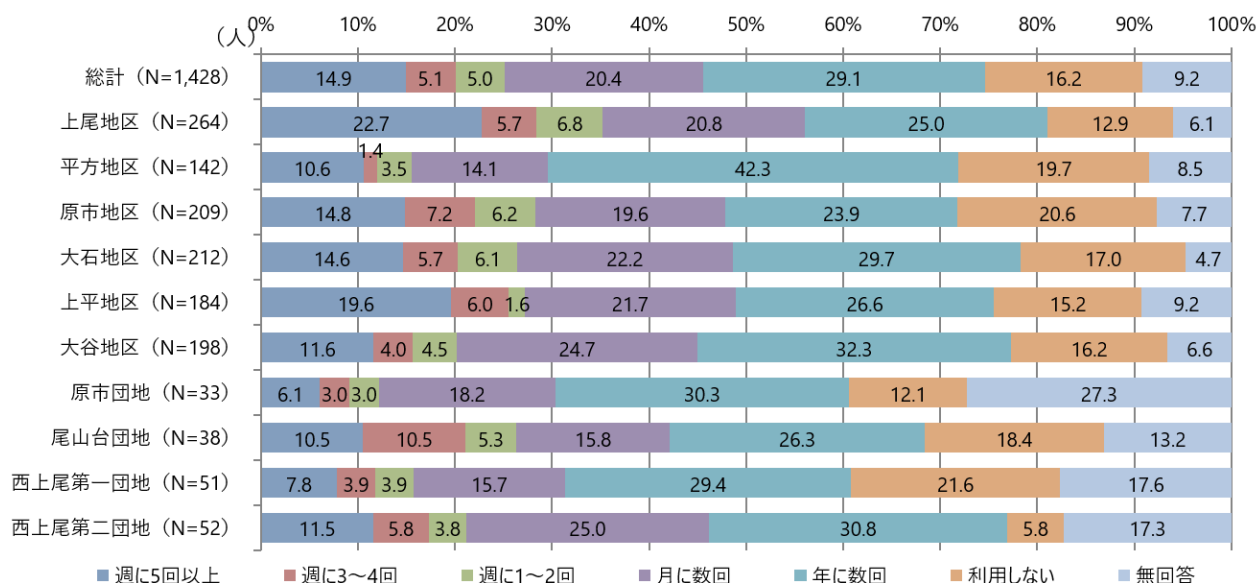
■ぐるっとくん利用状況



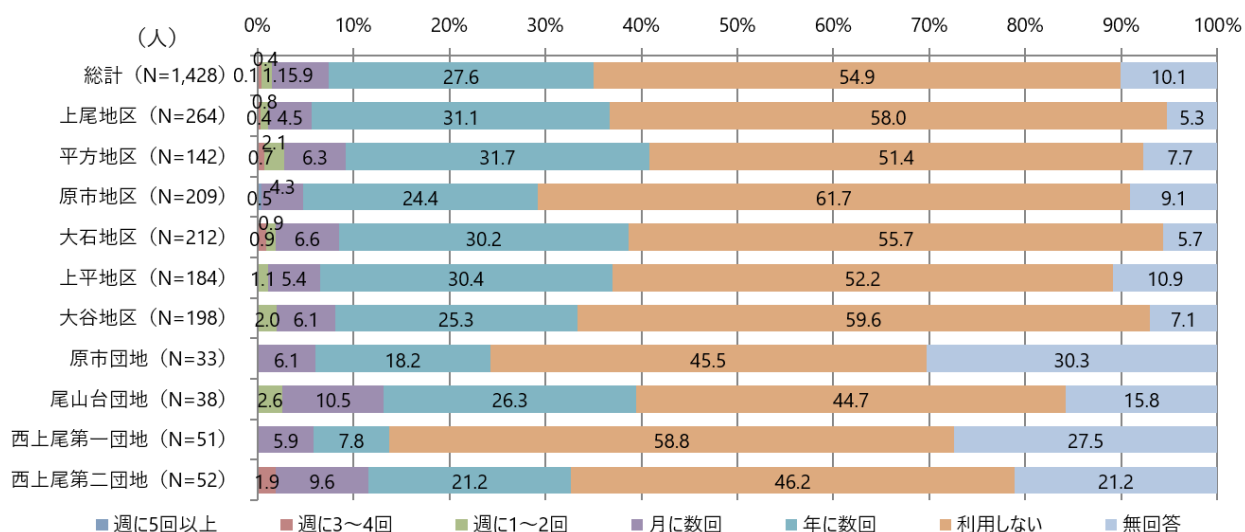
■民間路線バス利用状況



■鉄道利用状況



■タクシー利用状況

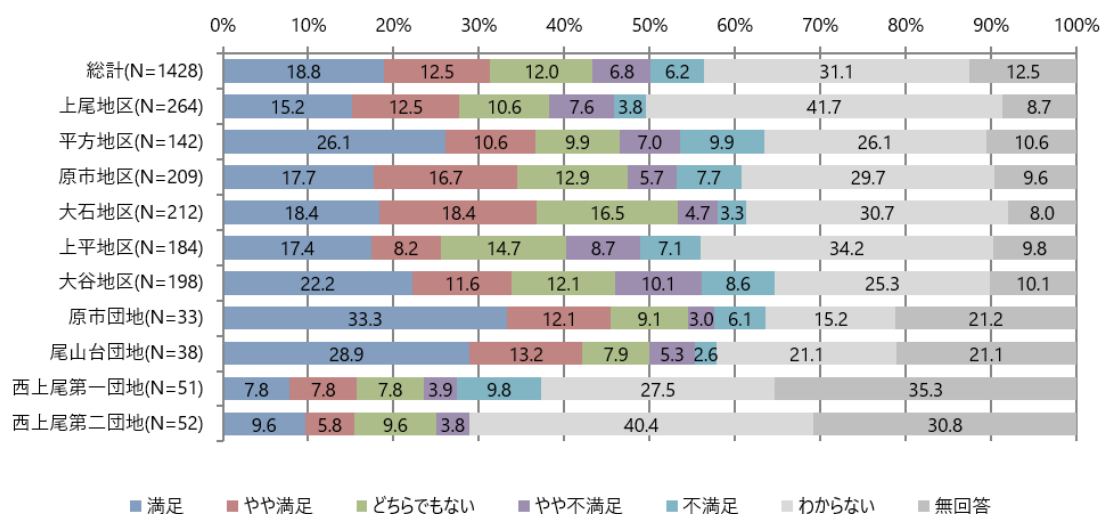


⑤満足度

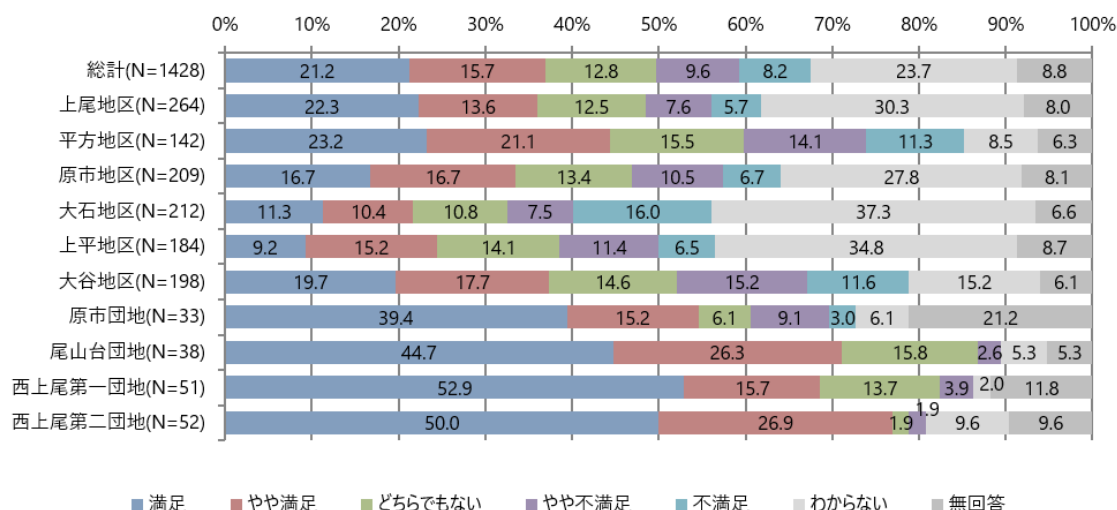
- 【自宅や目的地とバス停の距離】市内循環バスに比べ民間路線バスの方が「満足」「やや満足」と回答した方の割合が多い。特に団地居住者の回答は5割を超えている。西上尾第一・二団地居住者については市内循環バスとの評価差が大きく、路線配置も含め検討が必要であることが推察できる。
- 【運行本数】市内循環バスでは多くの地区で運行本数に対する満意割合は2割未満となっている一方、民間路線バスでは原市団地や西上尾第二団地では満足割合が高いものの、平方地区では「やや不満」「不満」の割合が5割を超えている。市内循環バスでは運行本数の充実が全市的な課題である一方、民間路線バスでは地区特性や運行環境に応じた運行頻度の確度が必要であると推察できる。
- 【始発・終発時間】市内循環バス、民間路線バスどちらについても「満足」「やや満足」と回答した方の割合が一部地区・団地を除き2割以下にとどまっている。通勤や通学等需要に合わせた運行時間の検討が必要と推察できる。
- 【運賃】市内循環バスでは「満足」「やや満足」と回答した方の割合が一部地区・団地を除き2割程度にとどまっているものの、「やや不満」「不満」と回答した方の割合は約1割ほどと満足している方の割合の方が多い。一方で民間路線バスでは平均満足度は市内循環バスと比べ高いものの、やや不満と回答している割合も多くなっている。運行時間や運行本数等満足度が低いことから運賃以外のサービス面とのバランスが影響していると推察できる。
- 【バス停環境】市内循環バスについては原市団地を除き多くの地区で満足割合が2割前後となっており、大きな地区の差は見られない。一方で、民間路線バスでは地区により満足度にばらつきがみられる。バス停環境は利用者の快適性や利便性に影響する要素であることから、利用状況をふまえたベンチや上屋など待合環境の充実を図ることが必要と推察できる。
- 【運行経路】市内循環バスでは「満足」「やや満足」の割合は約1割、特に尾山台団地や西上尾第一団地の満足度が低い。民間路線バスでは団地居住者について市内循環バスとの評価差が大きく、満足度が高い。市内循環バスについては目的地までの経路が利用者ニーズと合っていないことが推察できる。
- 【乗り降りのしやすさ】市内循環バスでは「満足」「やや満足」の割合が平方地区で比較的高く、西上尾第一・二団地では低い傾向にある。一方で民間路線バスでは、西上尾第一・二団地において「満足」「やや満足」の回答割合が高い。
- 【自転車との乗り継ぎ】上尾市役所各支所にサイクル&バスライドの仕組みを展開しているが、市内循環バス、民間路線バスともに「満足」「やや満足」の回答割合が1割未満と低く、周知を含めた対策が必要であると推察できる。
- 【運行情報の分かりやすさ】市内循環バスの満足度は約1割前後となっており、民間路線バスでは多くの地区で満足度が2割前後と市内循環バスより高いが、地区により差がみられる。バスロケーションシステム（BusGo!）含めた情報の周知PRが必要であると推察できる。
- 【総合評価】市内循環バス（満足度約1割）と民間路線バス（満足度約2割）となっており、民間路線バスの評価の方が高いが、市内循環バスに比べ地区による満足度の差も大きい結果となった。

■ 自宅とバス停の距離

・ 市内循環バス「ぐるっとくん」

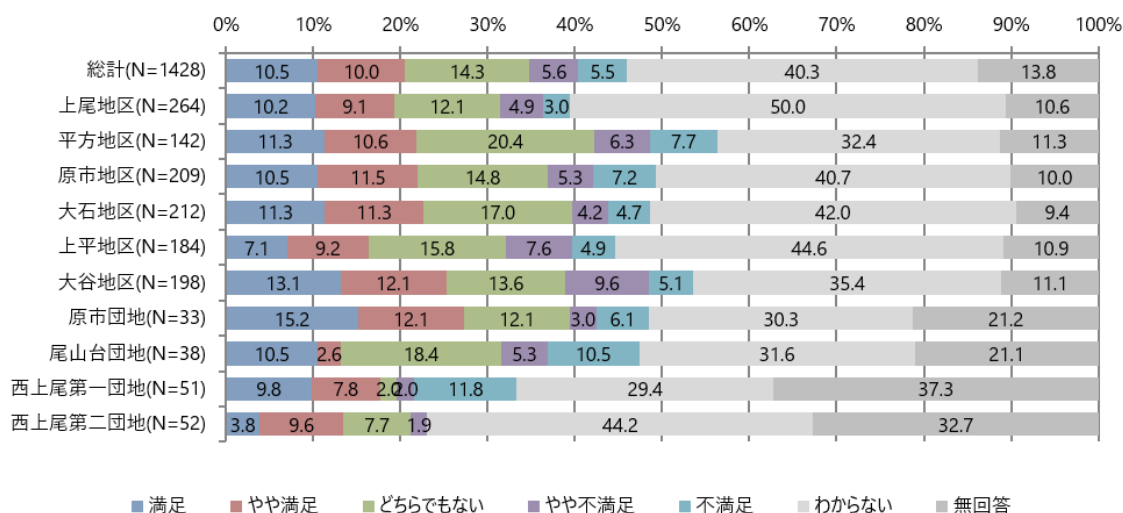


・ 民間路線バス

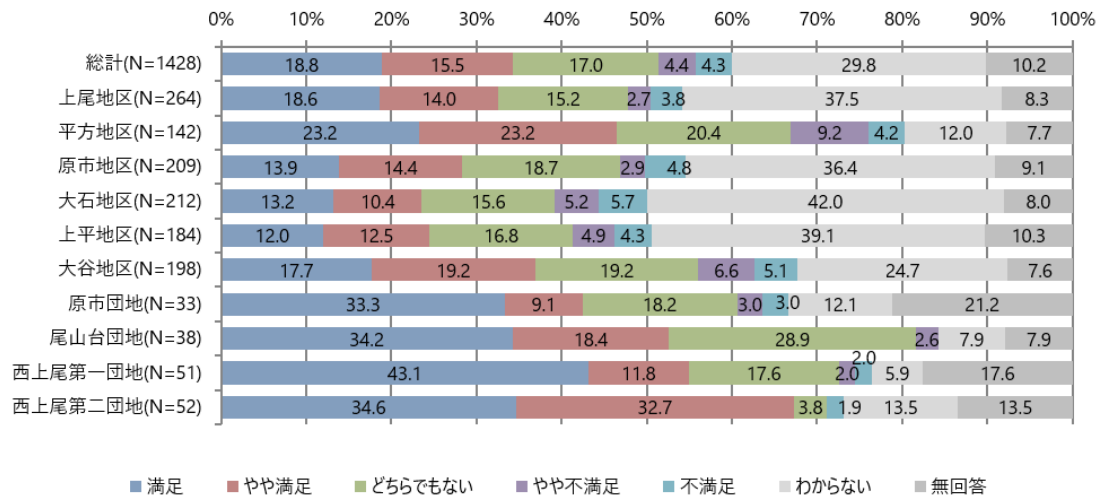


■ 目的地とバス停の距離

・ 市内循環バス「ぐるっとくん」

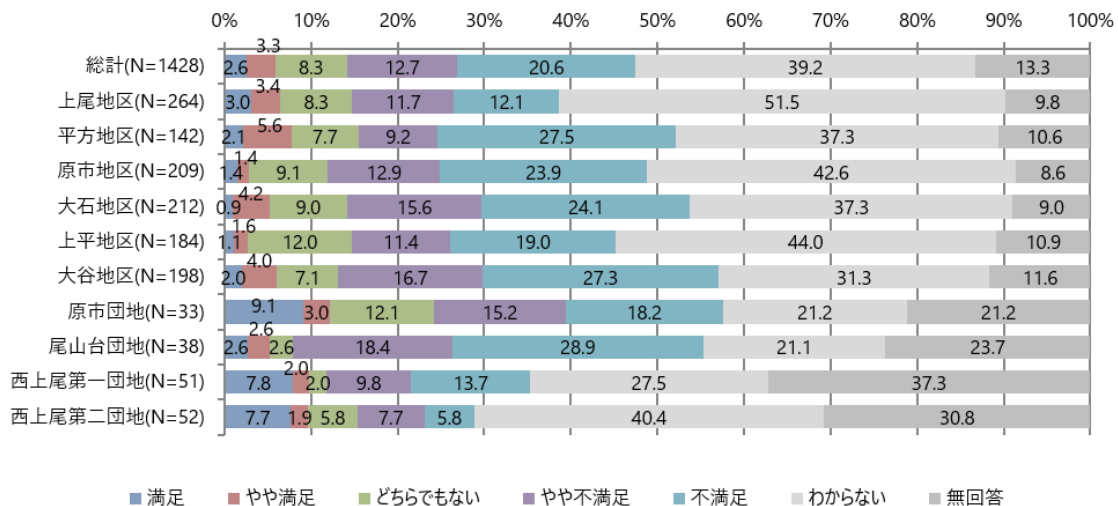


・民間路線バス

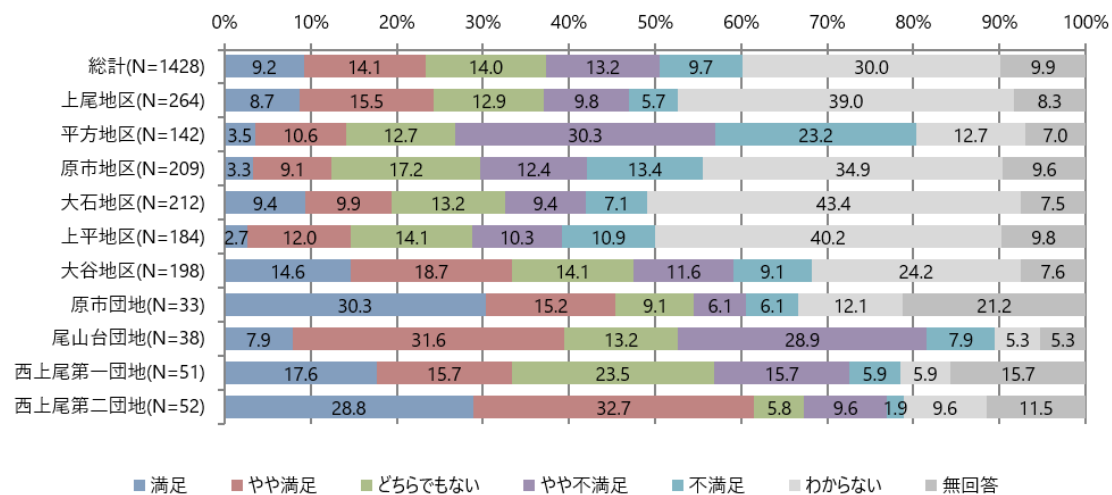


■運行本数

・市内循環バス「ぐるっとくん」

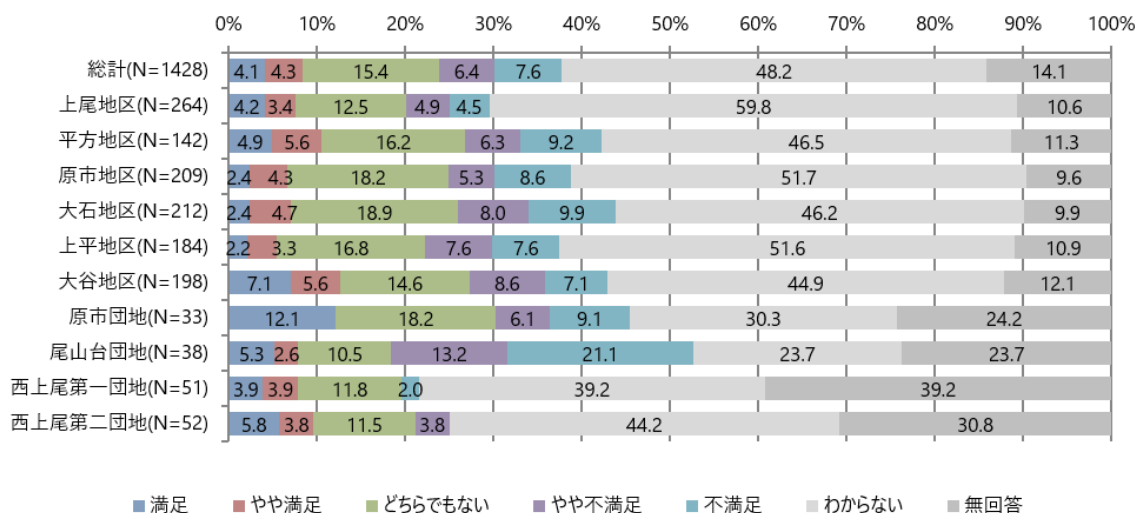


・民間路線バス

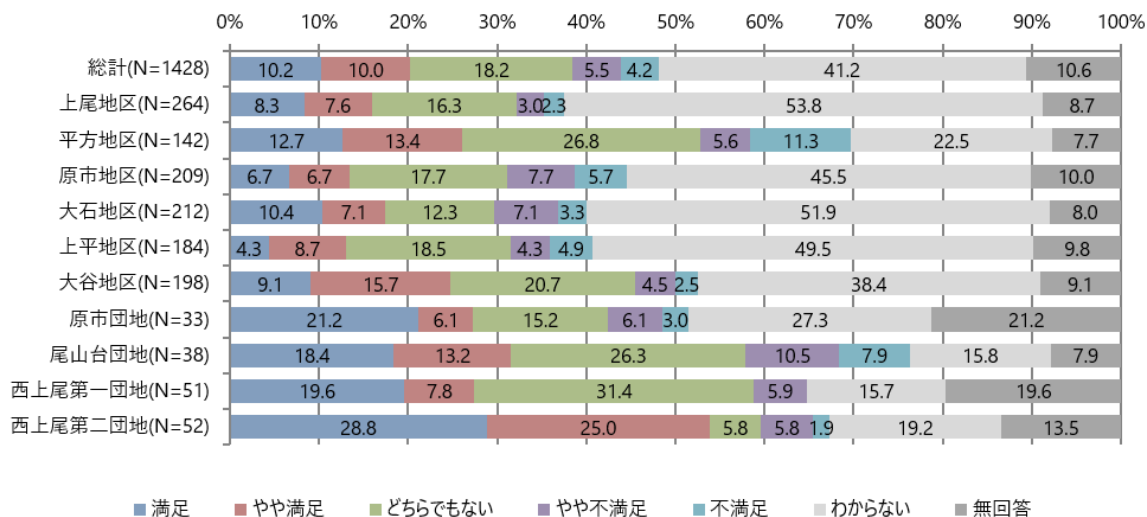


■始発時間

・市内循環バス「ぐるっとくん」

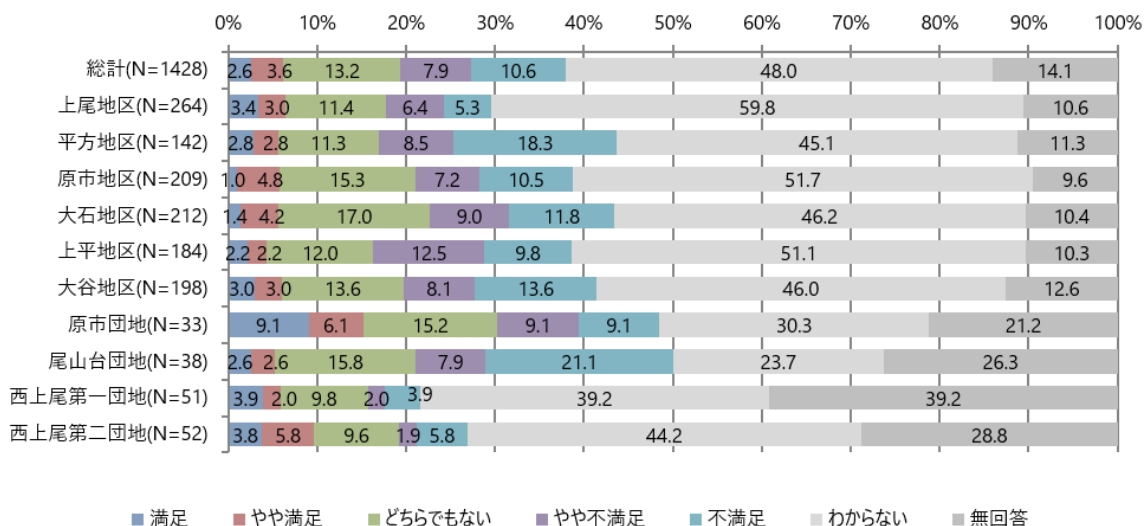


・民間路線バス

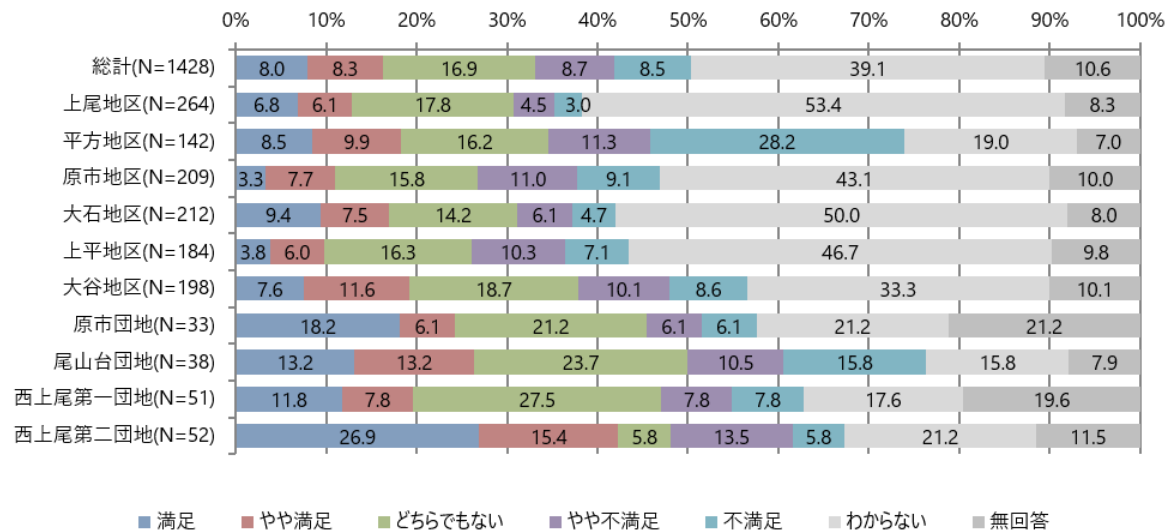


■終発時間

・市内循環バス「ぐるっとくん」

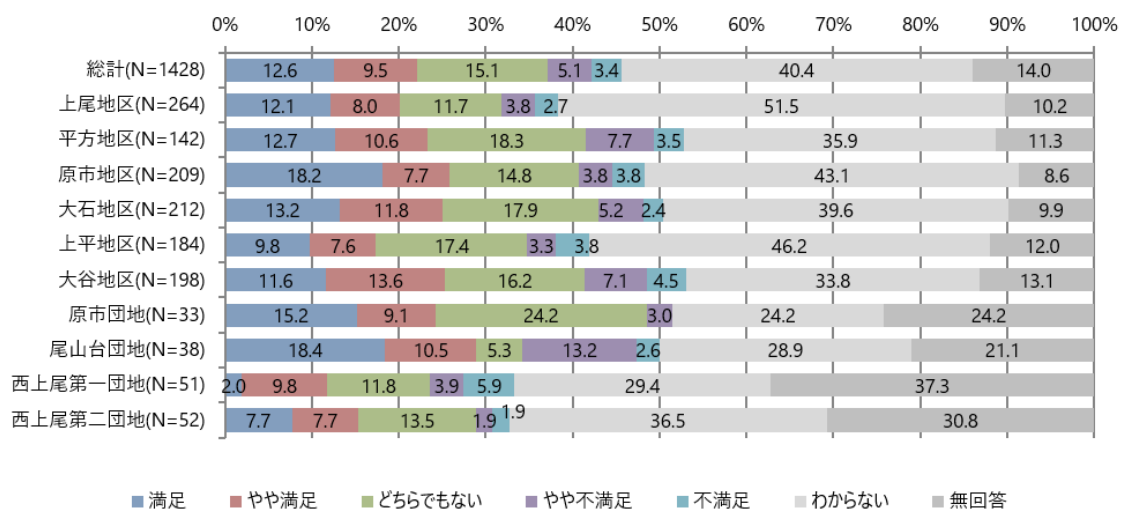


・民間路線バス

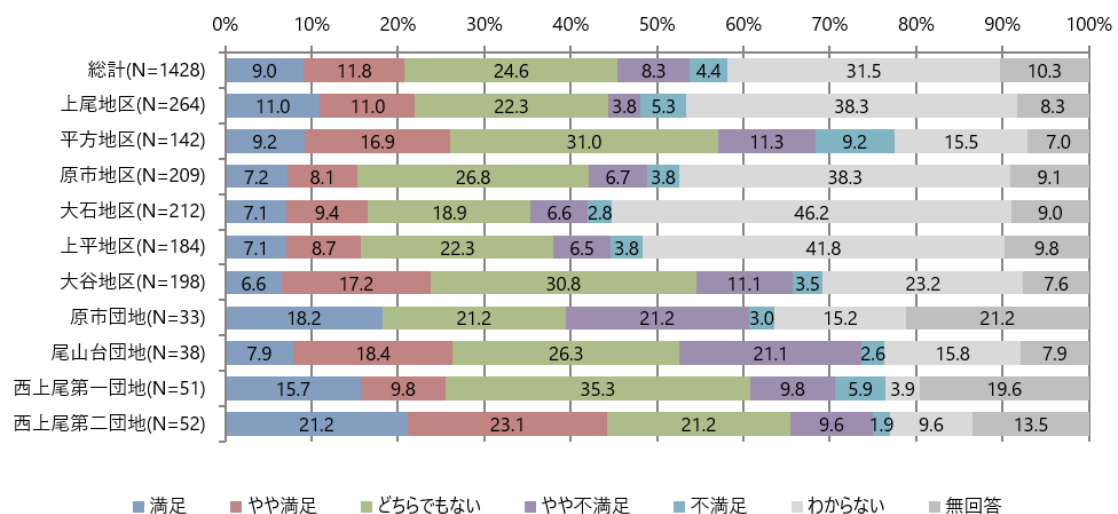


■運賃

・市内循環バス「ぐるっとくん」

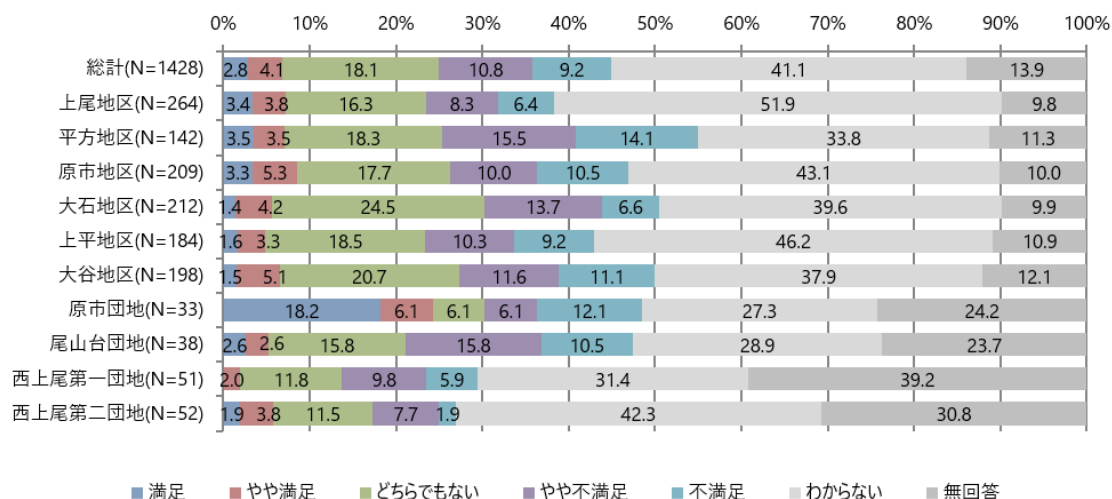


・民間路線バス

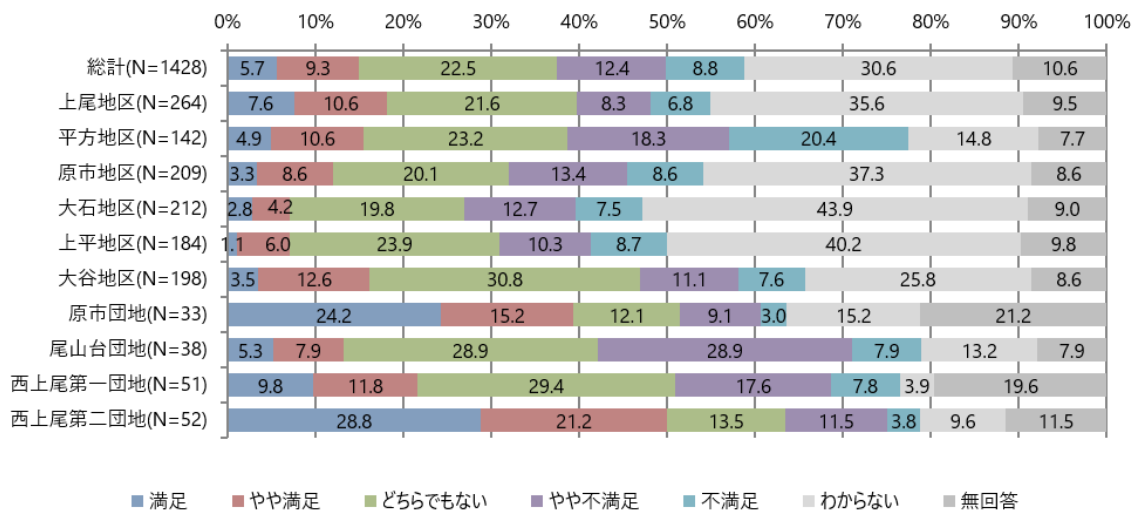


■バス停環境

・市内循環バス「ぐるっとくん」

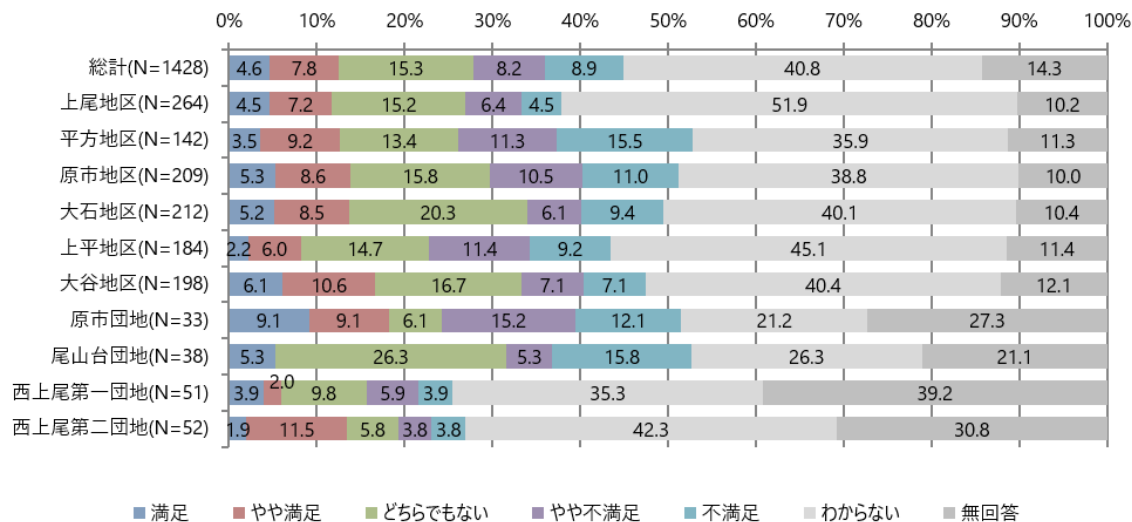


・民間路線バス

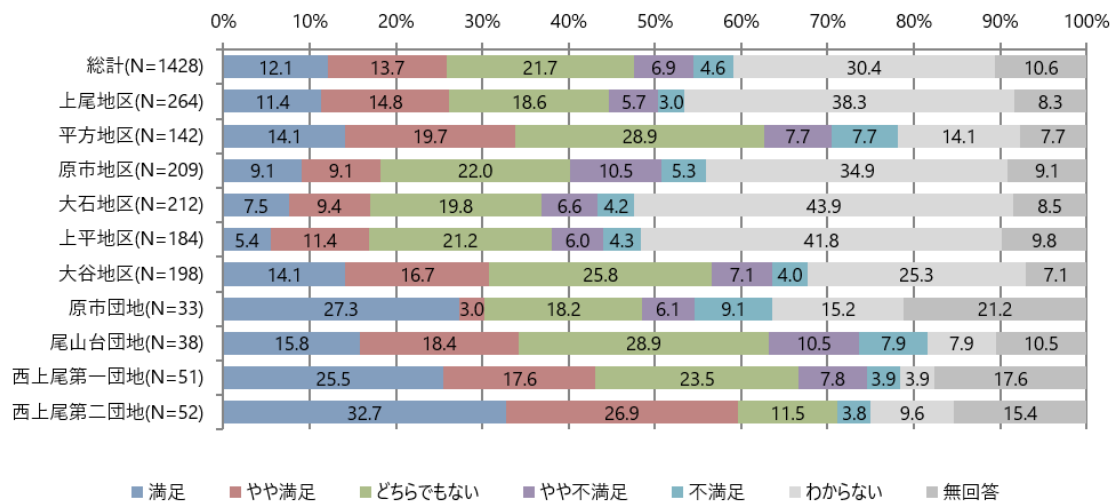


■運行経路

・市内循環バス「ぐるっとくん」

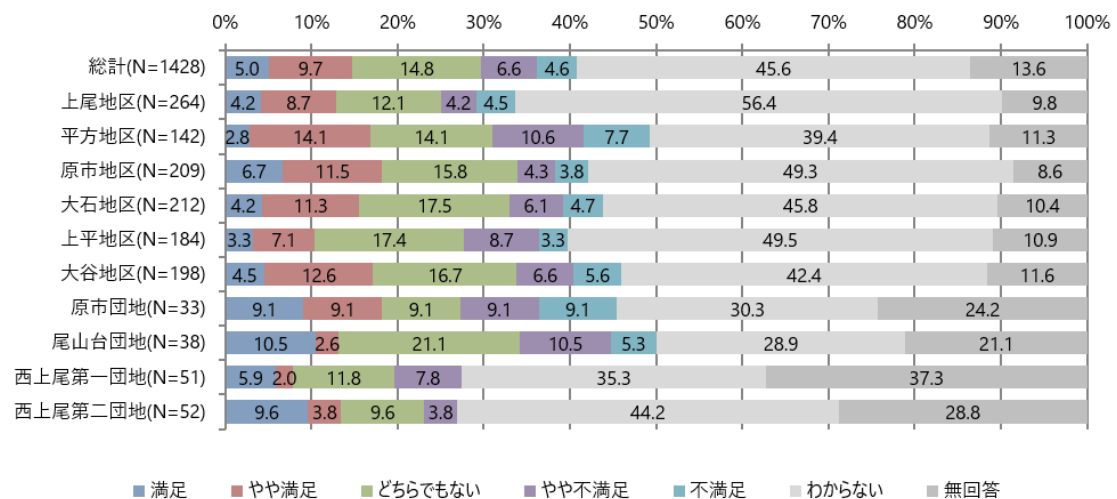


・民間路線バス

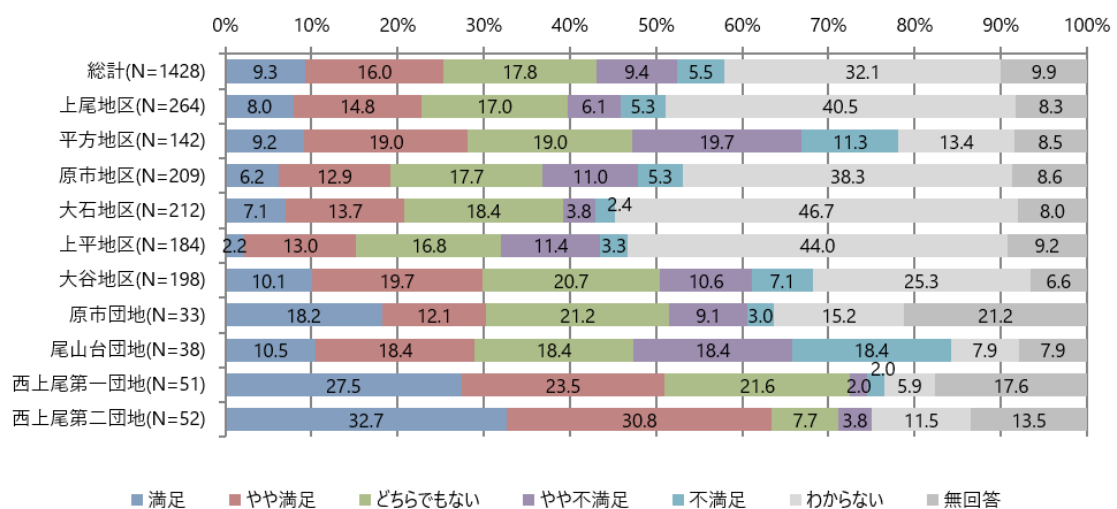


■運行時間の正確性

・市内循環バス「ぐるっとくん」

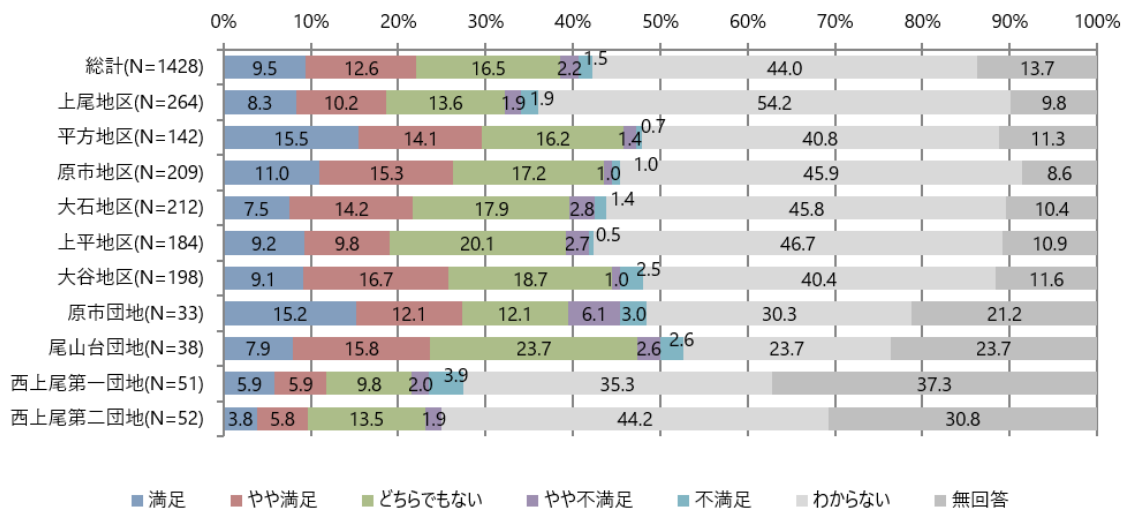


・民間路線バス

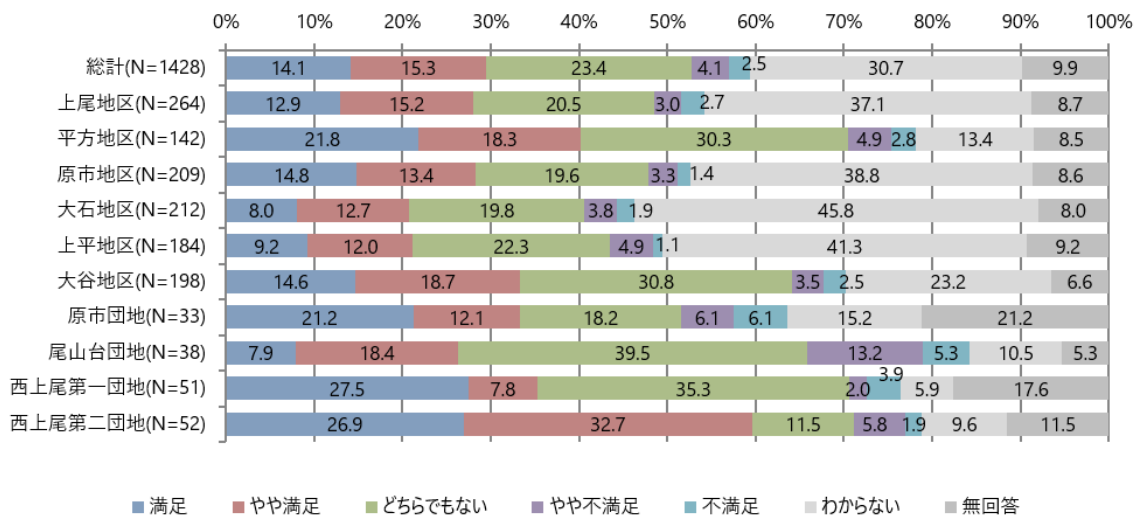


■ 乗り降りのしやすさ

・ 市内循環バス「ぐるっとくん」

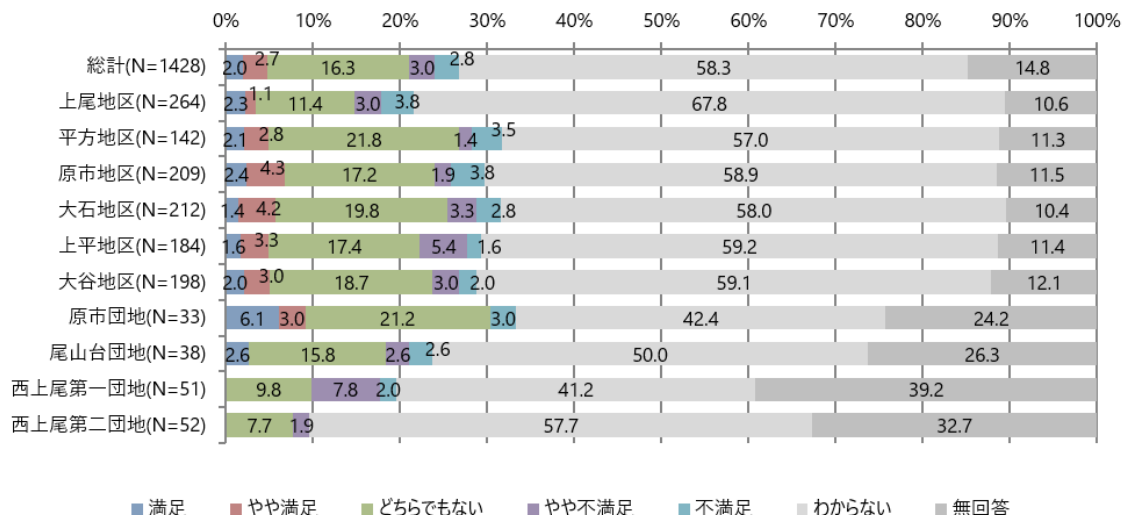


・ 民間路線バス

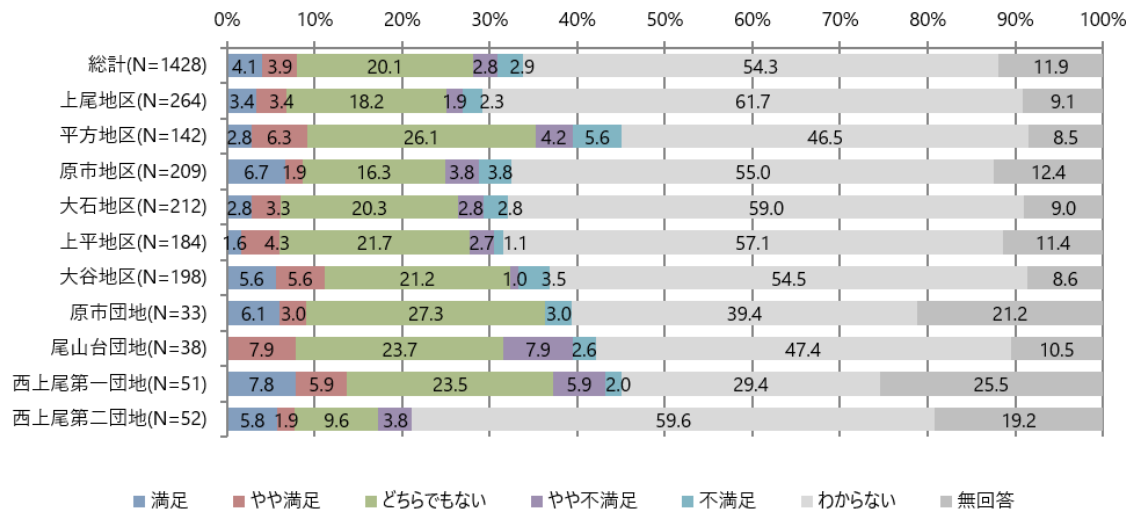


■ 自転車の乗り継ぎ

・ 市内循環バス「ぐるっとくん」

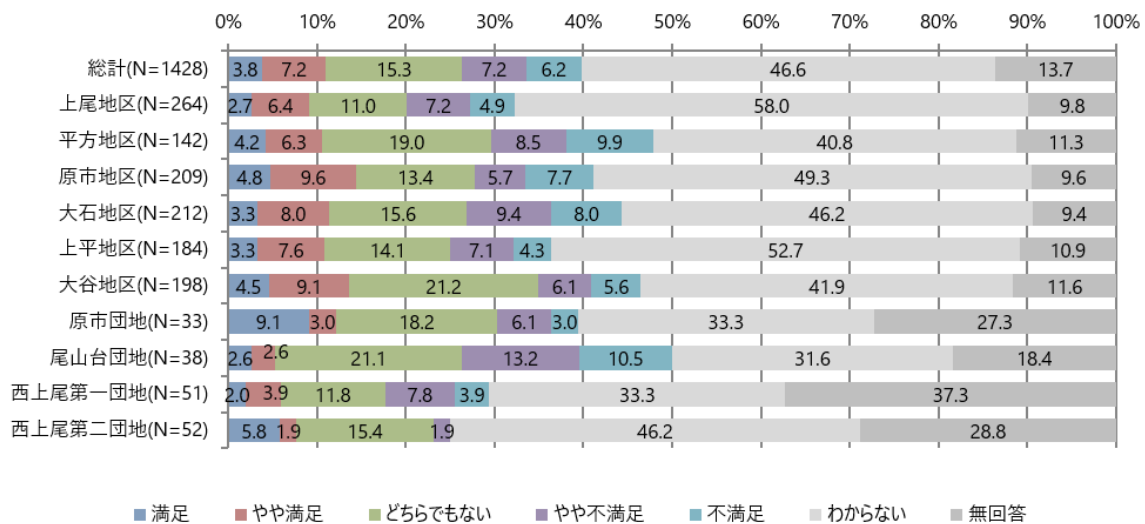


・民間路線バス

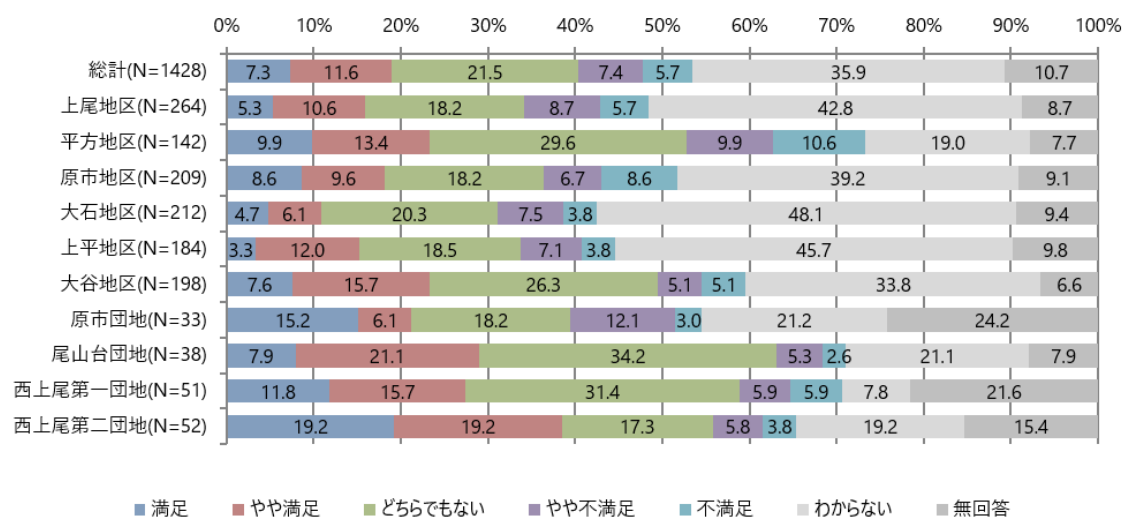


■運行情報の分かりやすさ

・市内循環バス「ぐるっとくん」

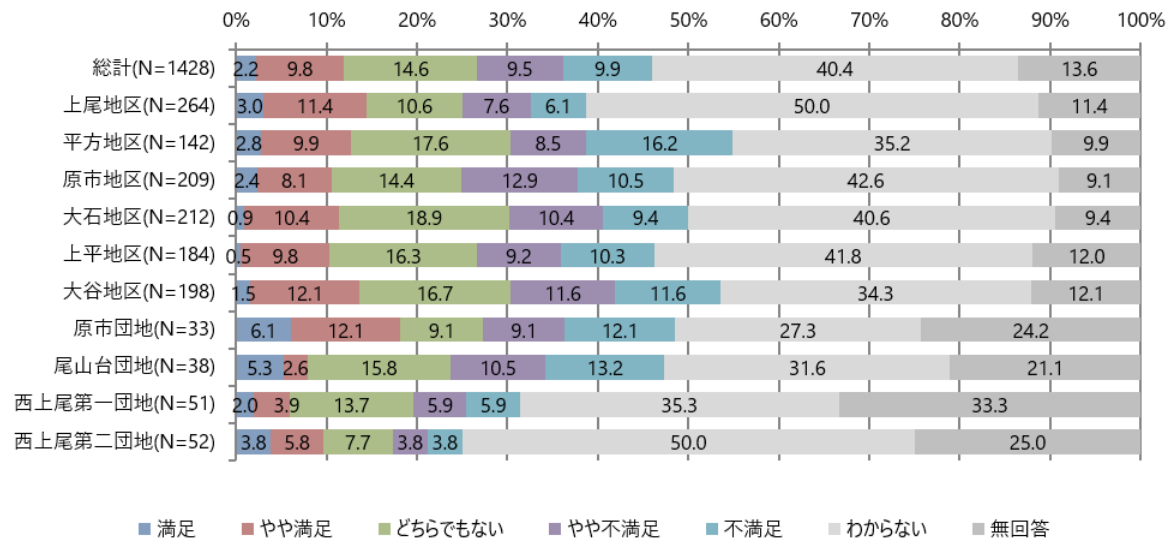


・民間路線バス

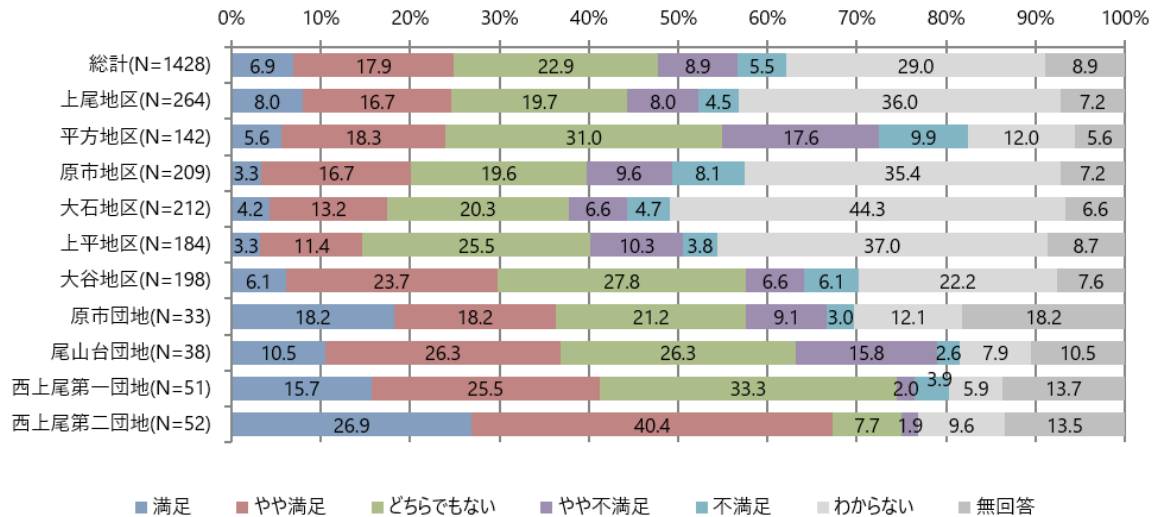


■ 総合評価

・ 市内循環バス「ぐるっとくん」



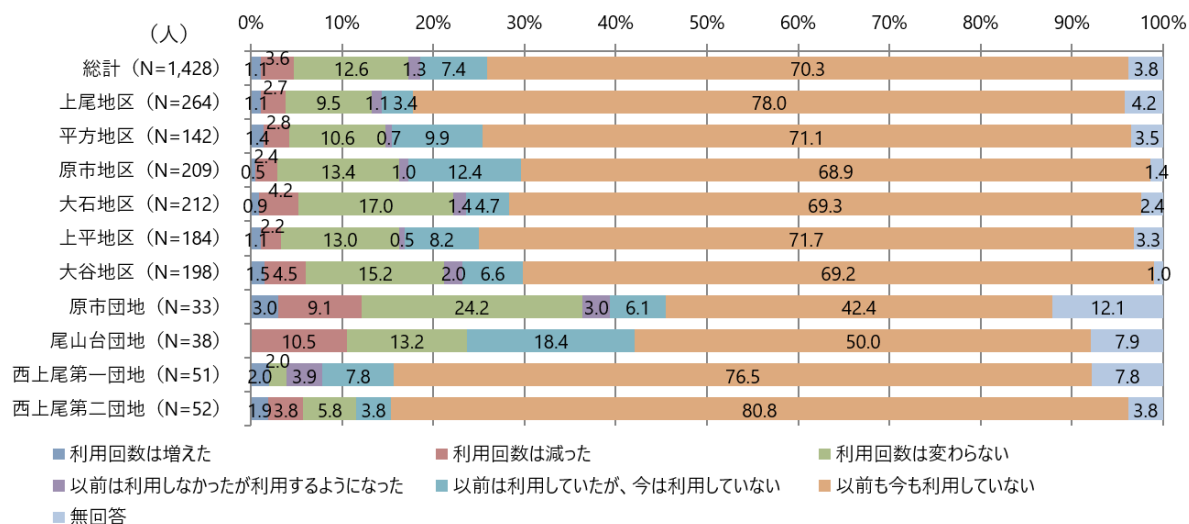
・ 民間路線バス



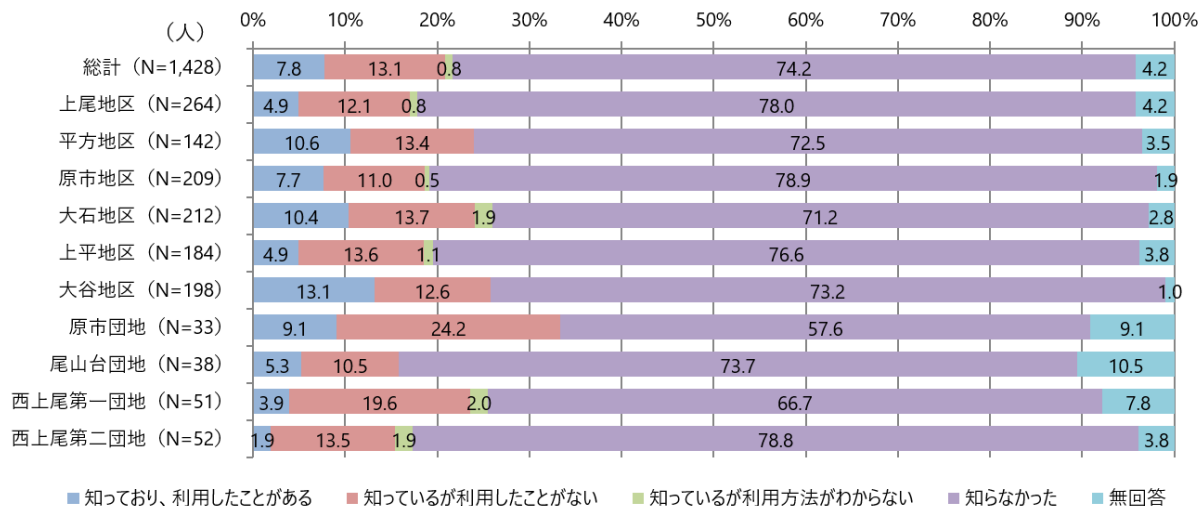
⑥近年の取組みについて

- 【見直し後の利用回数の変化】以前から利用していない人を除き「利用回数は変わらない」と回答の方が12.6%で最も多いが、原市・尾山台団地の居住者については「利用回数が減った」方の割合も他地区に比べ高くなっており、利用の少ない団地居住者への施策の検討が必要と推察できる。
- 【キャッシュレス化】「知らなかった」と回答の方が74.2%と最も多く、利用者促進施策含め広告周知の強化が必要と推察できる。
- 【バスロケーションシステム】「ぐるっとくん」「民間路線バス」とともに「知らなかった」の回答が最も多く7割を超えており、広告周知が必要である。
また、「知っているが利用方法が分からない」より「知っているが利用したことがない」方の回答割合が多く、利用シーンや使うメリットなどの情報発信が必要である。
- 【交通マップの認知度】「知っており、利用したことがある」の回答が1割未満となっており、交通マップにネット検索等を超える利便性を感じていないと推察できる。
- 【タクシーの予約アプリの認知度】「知っているが利用したことがない」が48.7%で最も多く、タクシー自体の利用状況も低いため移動手段として選択されていないと推察できる。

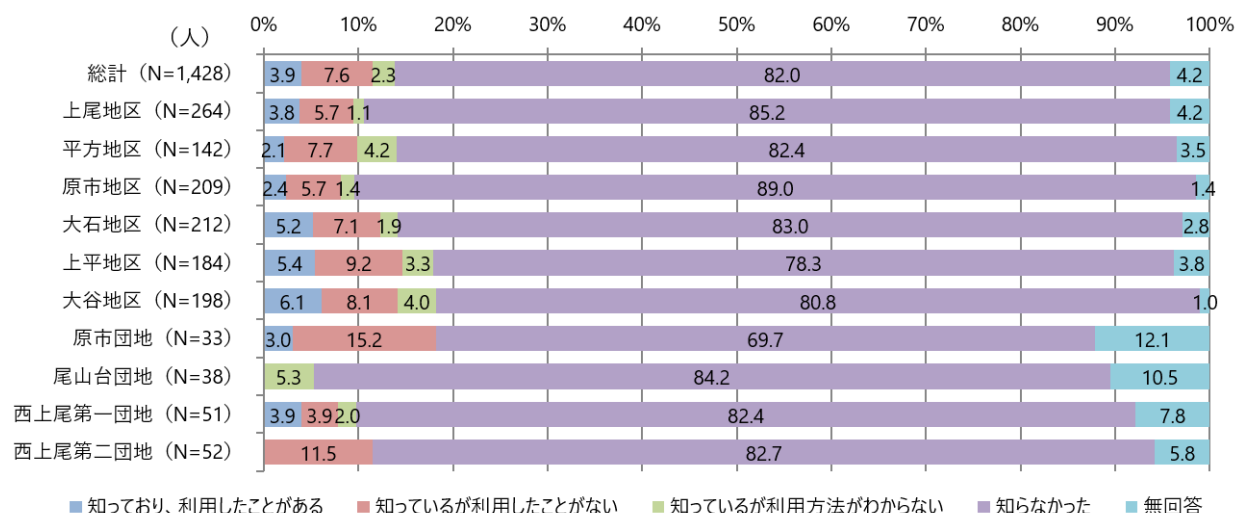
■ぐるっとくん見直し後の利用回数



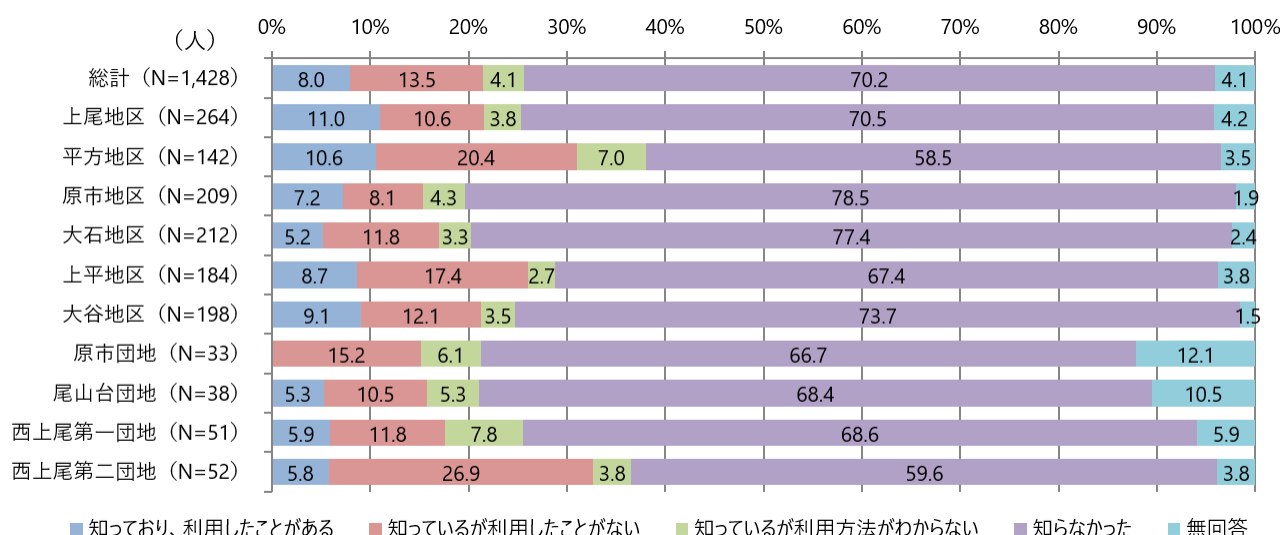
■キャッシュレス化について（令和7年4月より）



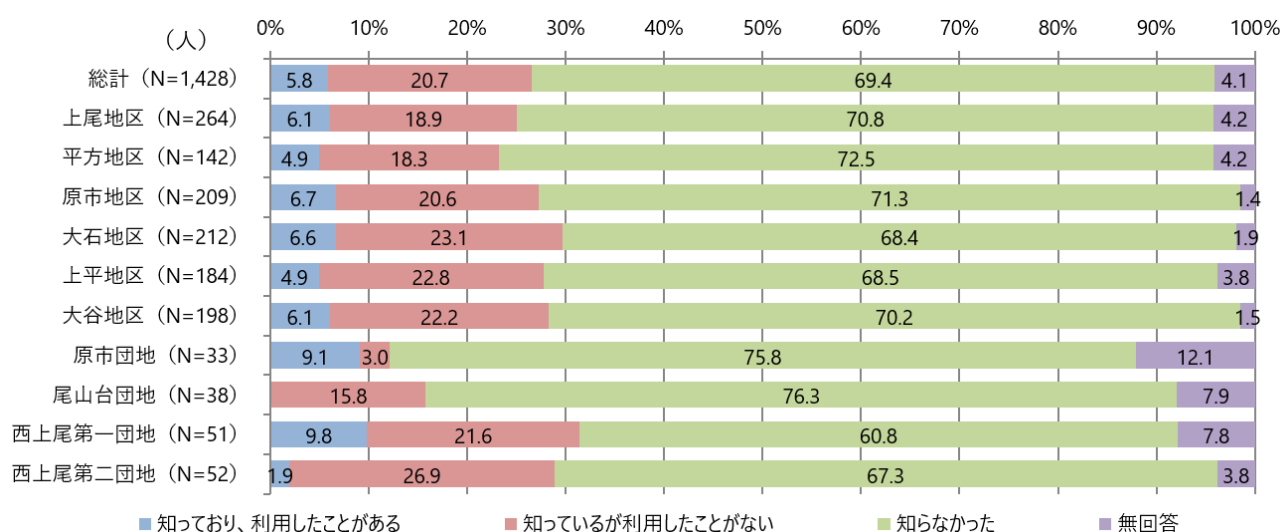
■市内循環バス「ぐるっとくん」バスロケーションシステム「BusGo!」の認知度



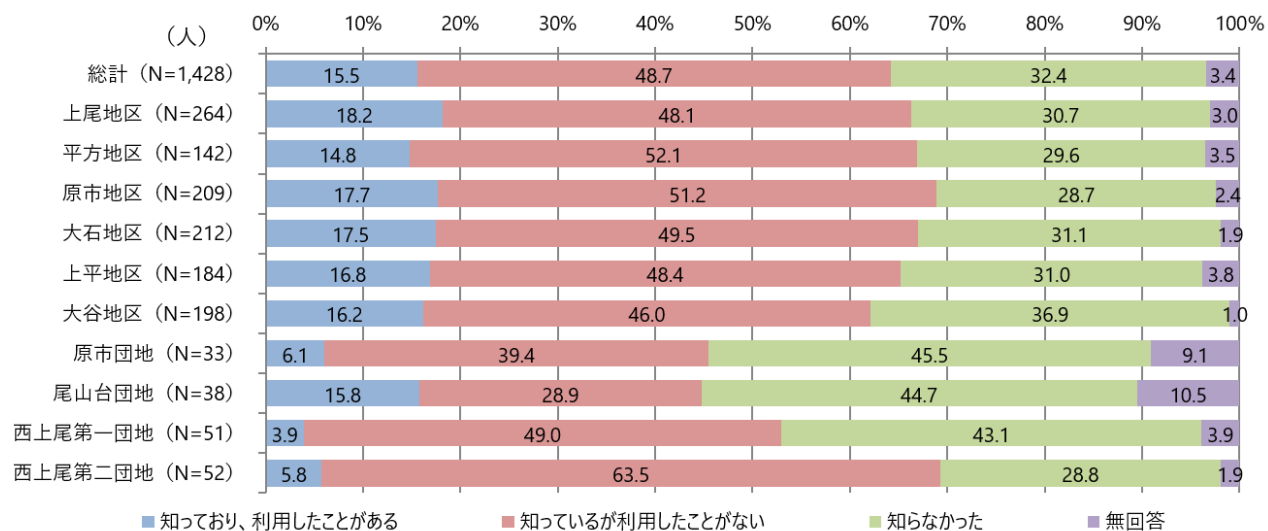
■民間路線バスのバスロケーションシステムの認知度



■交通マップの認知度



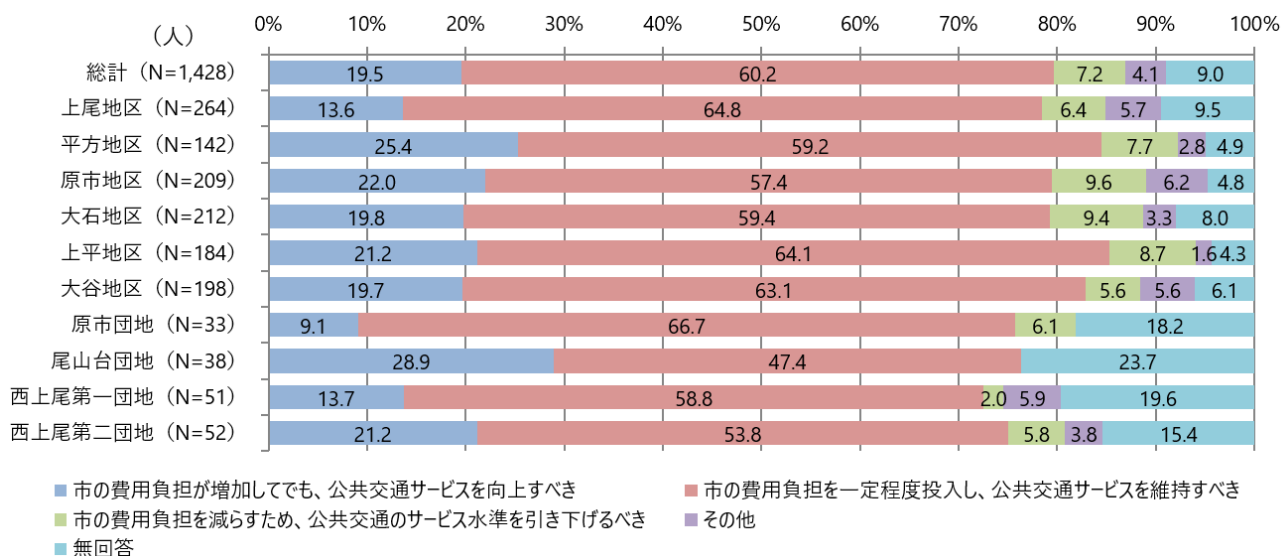
■ タクシー予約アプリの認知度



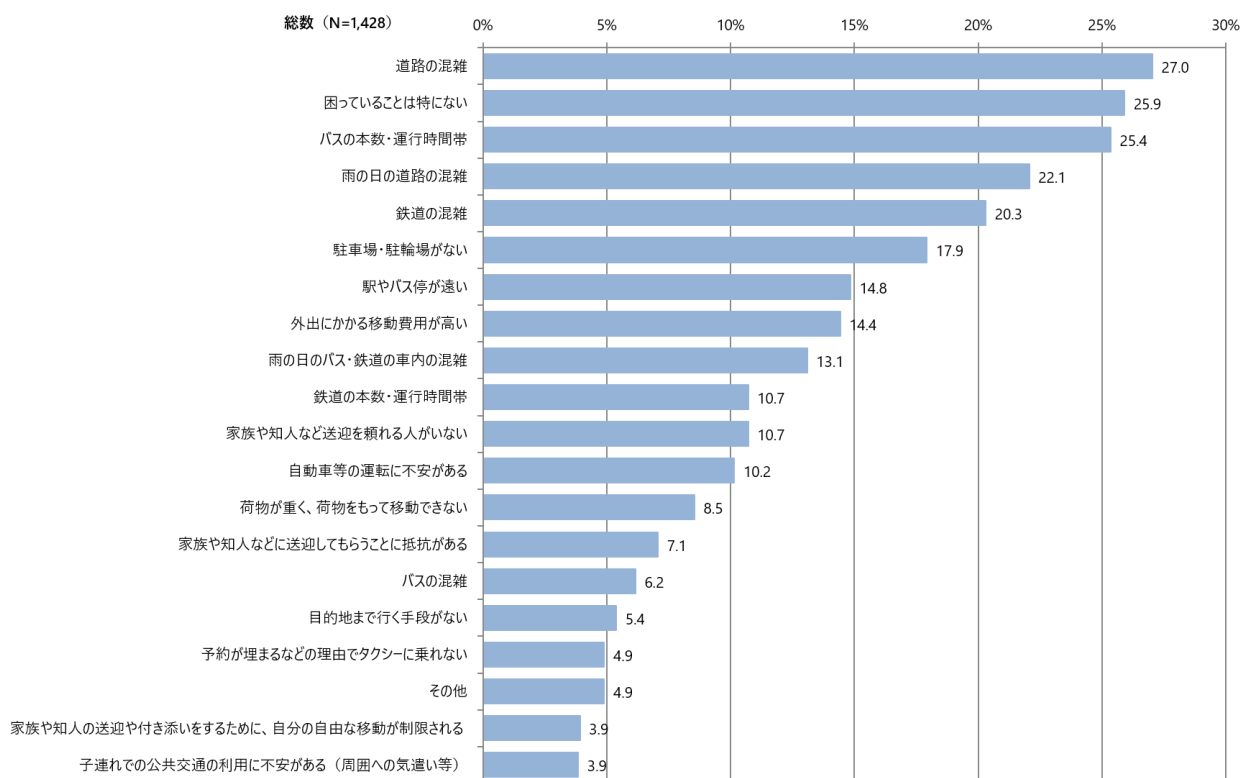
⑦今後の公共交通のあり方について

- 【財政負担】「市の財政負担を一定程度投入し、公共交通サービスを維持すべき」の回答が60.2%で最も多く、次いで「市の費用負担が増加してでも、公共交通サービスを向上すべき」が19.5%と併せて8割近くが財政負担の増加による公共交通サービスの充実への対応が望まれている。
- 【移動時の困りごと】「道路の混雑」が27.0%で最も多く、次いで「バスの本数・運行時間」25.4%「雨の日の道路の混雑」が22.1%となっている。
- 【将来の移動への不安】「足や体が弱くなり、外出するのが難しくなる」が39.1%で最も多く、次いで「鉄道、バス、タクシーなどの運賃が上がり、外出費用が自分にとって負担になる」が36.9%となっており、高齢者や免許返納者への補助等についての検討が必要と推察できる。
- 【今後の施策への対応】「ぐるっとくん・民間路線バスを維持するため、運転手不足の解消を図る支援をする」が21.5%で最も望まれており、次いで「駅でのバスの路線案内や発着案内を強化することで、公共交通の分かりやすさ向上を目指す」が18.7%、「ぐるっとくんについて、JR桶川駅への乗り入れや桶川市コミュニティバスとの連携を継続し、東大宮駅への乗り入れも検討する」が18.2%となっており、広域での交通網の形成も必要であると推察できる。

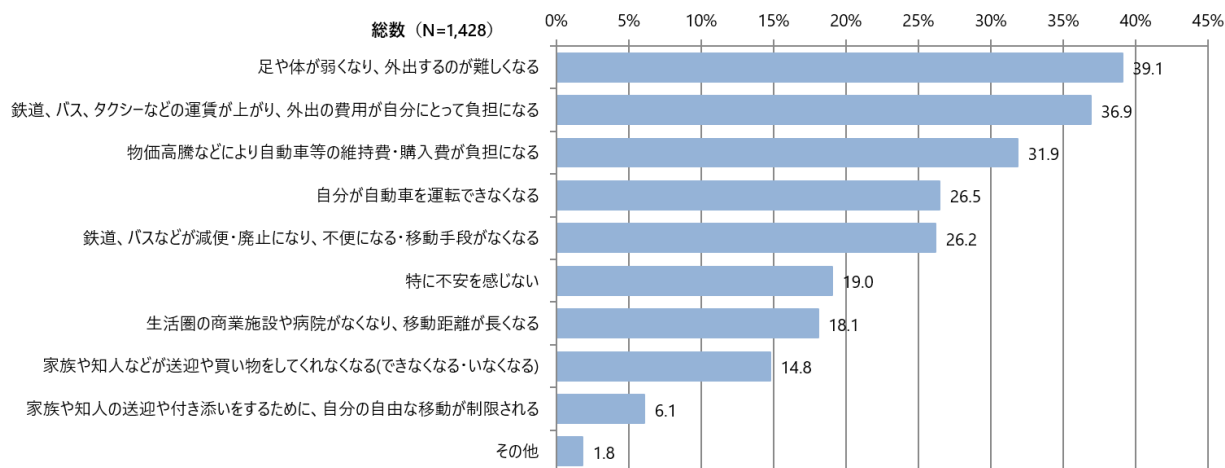
■財政負担について



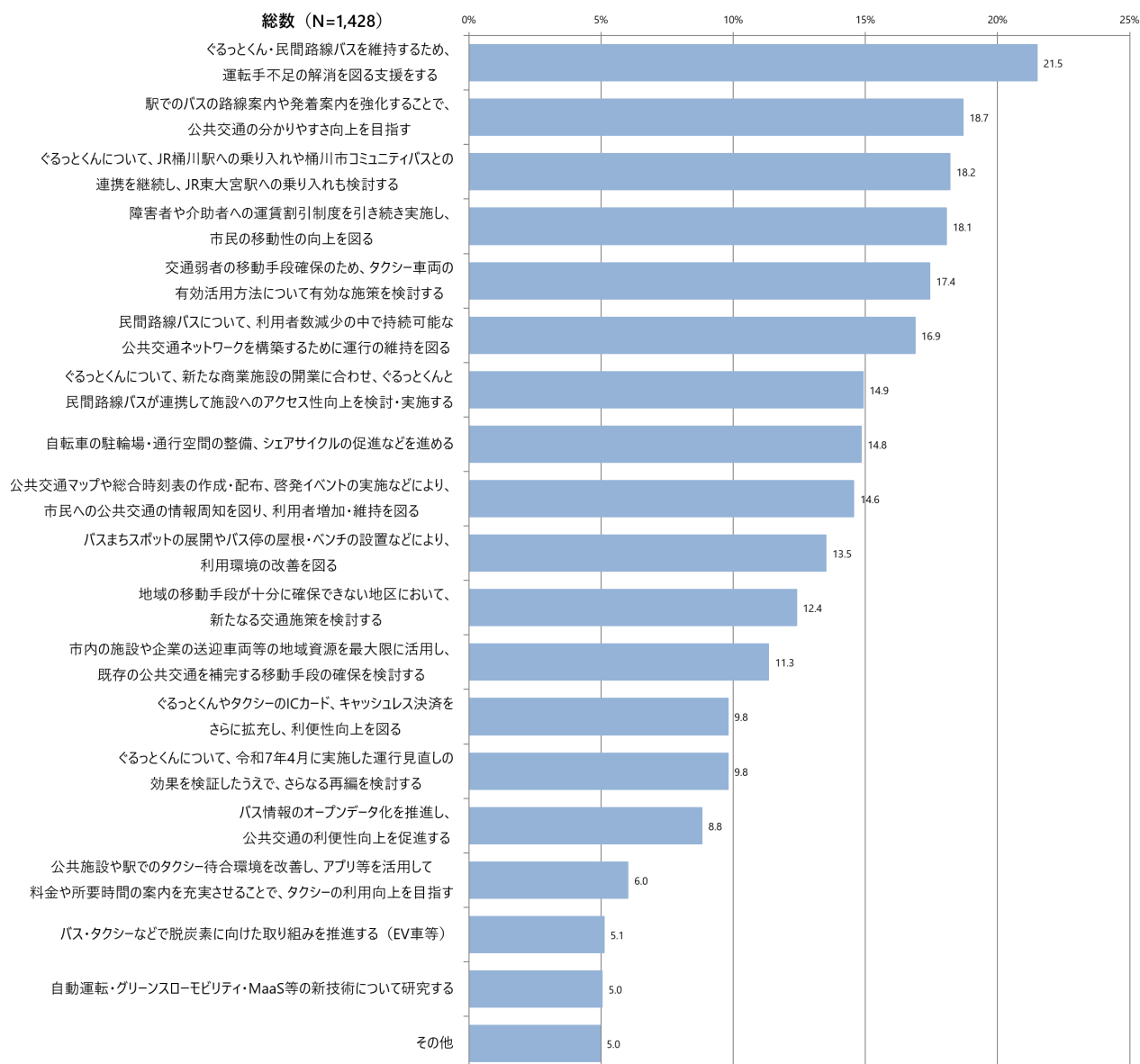
■移動時の困りごとについて



■将来の移動への不安



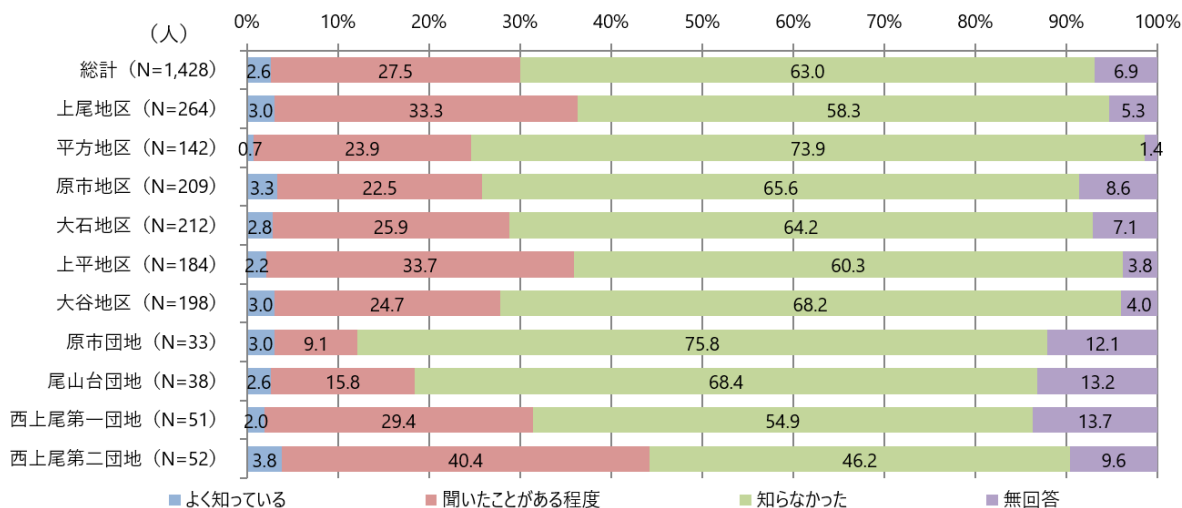
■今後の施策として、特に力を入れてほしい、達成してほしいと思う施策



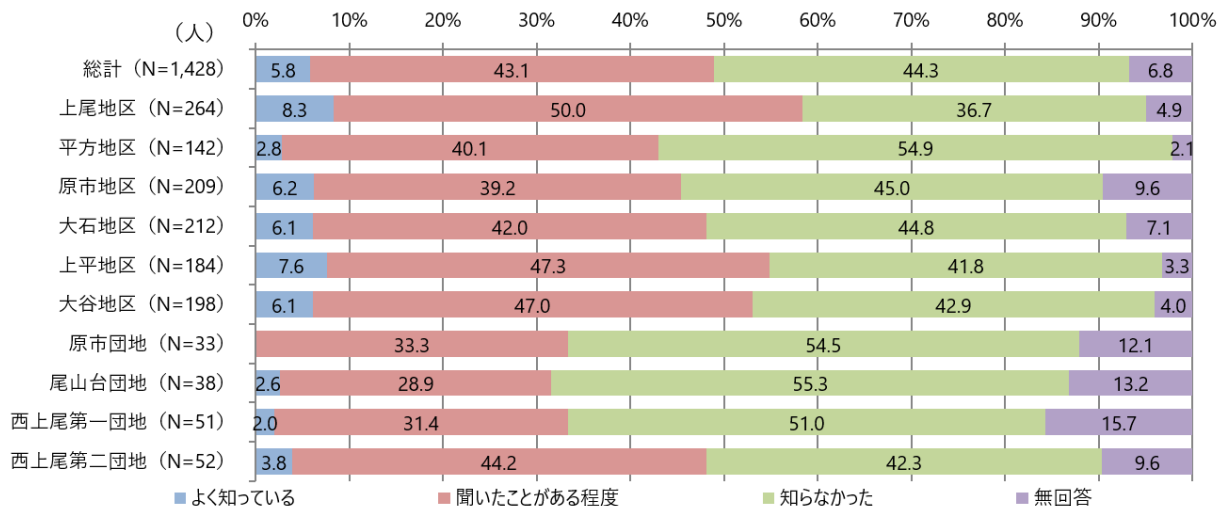
⑧タクシーの有効活用について

- 【オンデマンド交通及びライドシェアの認知度】「よく知っている」と回答した方はどちらも1割未満となっており、「聞いたことがある」と回答した方は近隣での導入事例等で約4割ほどとなっている。
- 【タクシー有効活用の考え】「輸送人員数の劣るタクシーの活用より、現在のバス（市内循環バス「ぐるっとくん」）の活用を基本として、運行ルートやダイヤの効率化を進めるべき」が41.2%で最も多いが、「現在運行している「ぐるっとくん」について、路線や一部区間を廃止し、廃止した区間でタクシーの有効活用を行うべき」の回答も4割近くあり、デマンド交通への期待が推察できる。
- 【タクシー有効活用の利用意向】条件ありも含め「利用したい」の回答は約7割近くあり、タクシー会社へのヒアリングも含め検討していく必要がある。
- 【行きたい場所】「駅や病院」など日常的な外出先が多くなっているおり、曜日についても「平日・土日祝どちらも」の回答が23.7%で最も多くなっている。
- 【移動時間】「行き」が10時台が最も多く、「帰り」は12-19時頃まで継続的に需要が分散している。

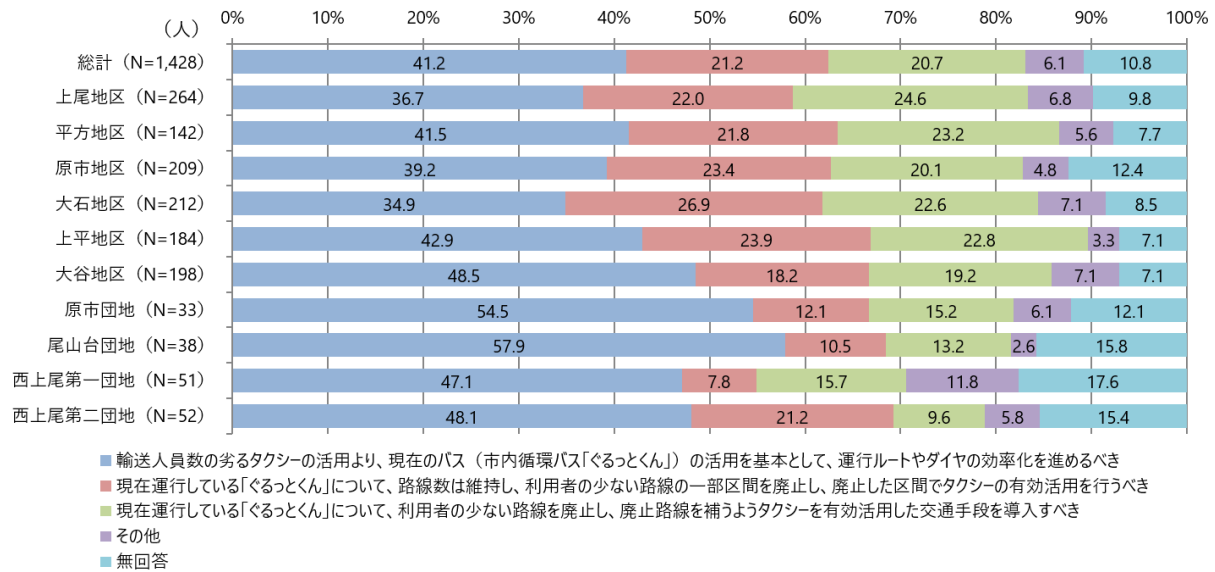
■オンデマンド交通の認知度



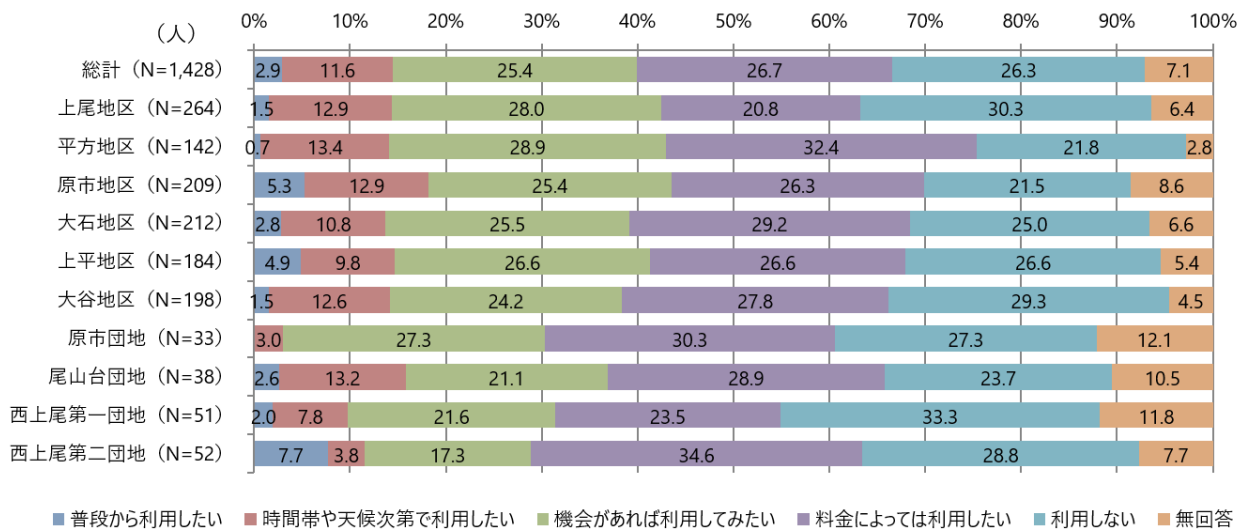
■ライドシェアの認知度



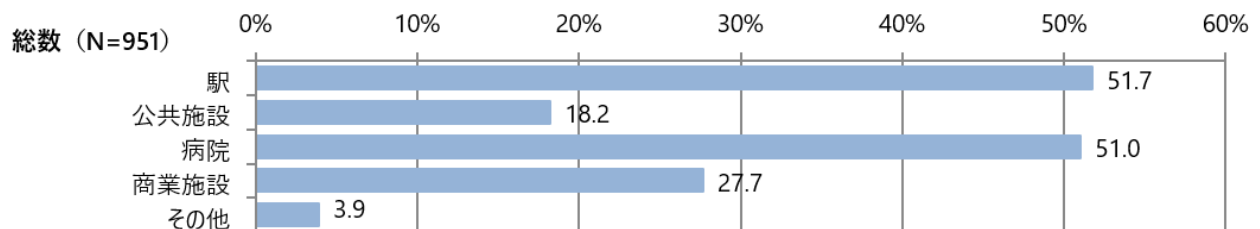
■タクシー有効活用の考え



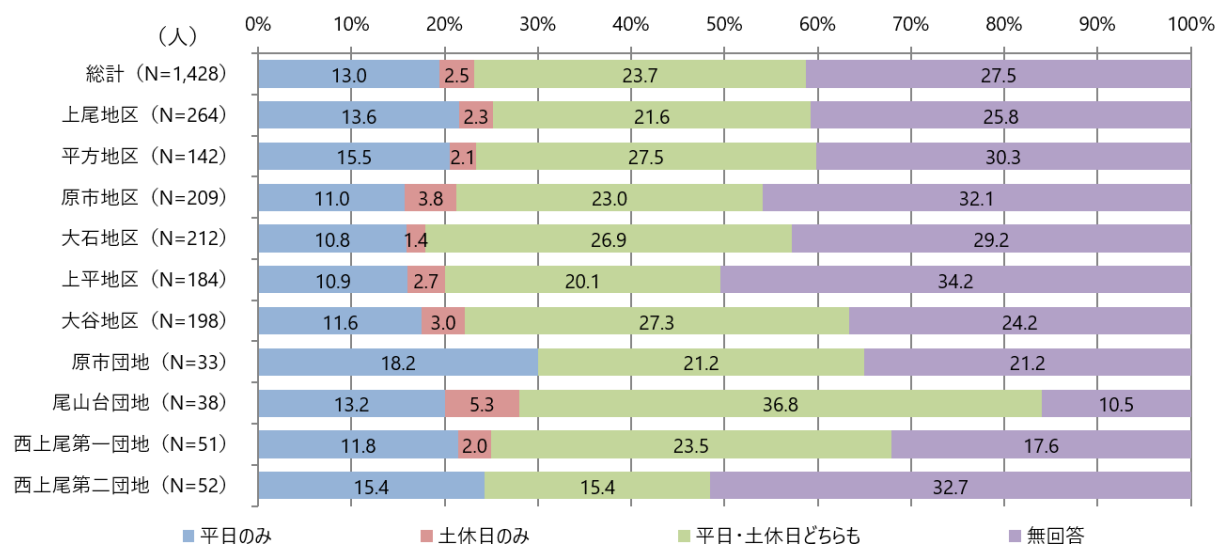
■タクシー有効活用の利用意向



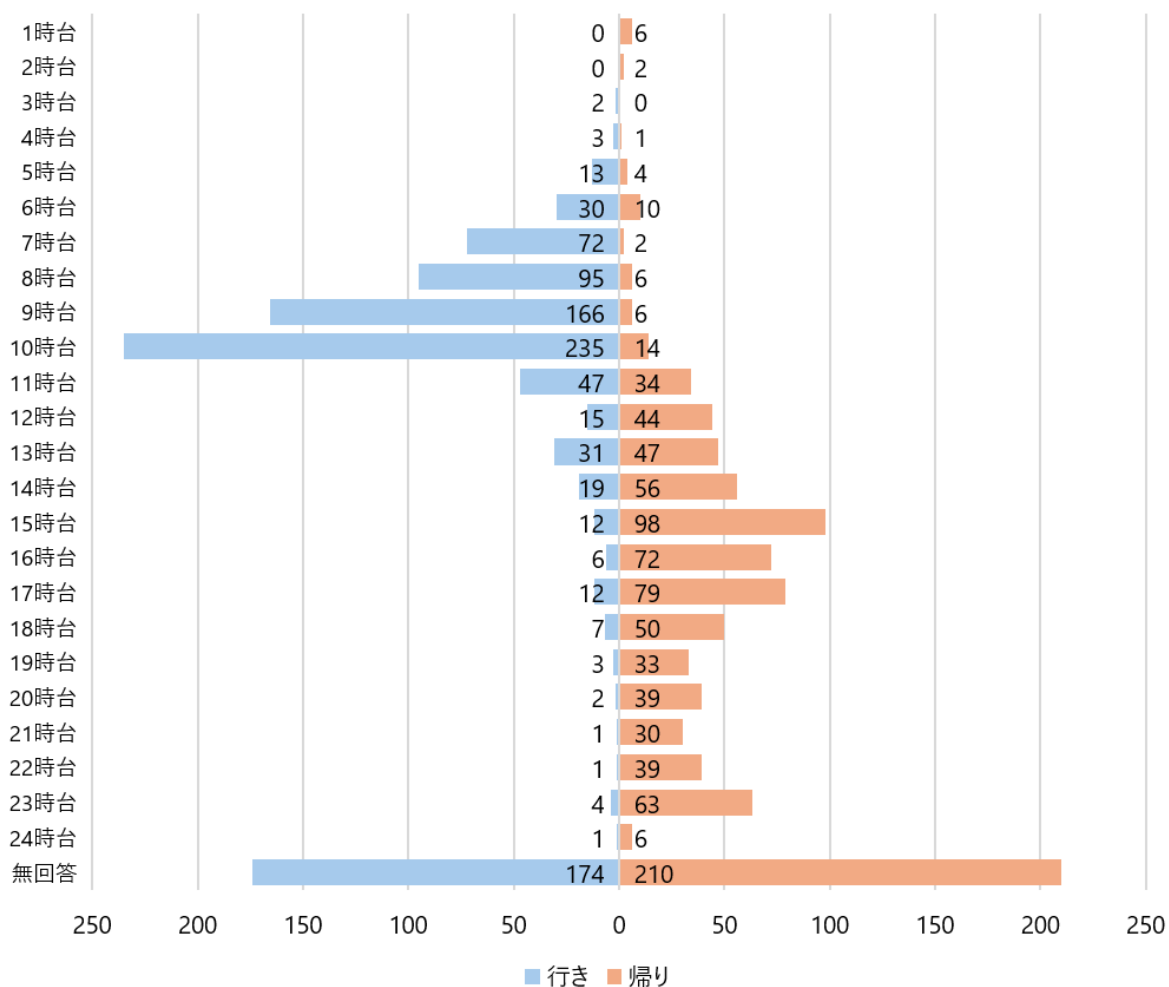
■行きたい場所



■利用したい曜日



■利用したい時間帯



2. 市内循環バス「ぐるっとくん」利用者アンケート

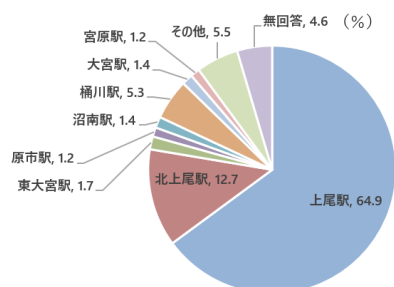
(1) 調査概要

対象者	・上尾市市内循環バス「ぐるっとくん」の全路線利用者						
主な調査項目	・属性（居住地、年齢、職業、運転免許保有状況及び運転免許返納意向） ・日常生活の移動実態 ・公共交通の利用実態と意識・要望 ・公共交通の維持に向けた財政負担の考え方						
調査方法	・平日：全便に調査員が1名乗り込み、利用者に調査票を配布 ・休日：上尾駅及び北上尾駅において調査員がバス停付近に待機し、乗降客に調査票を配布 ・郵送回収、Webによる回答を併用						
調査期間	・令和8（2026）年1月28日(水)、令和8（2026）年2月1日（日）						
回答数	・416票（回収率42％）						
内 訳		属性	実数	割合	属性	実数	割合
	お 住 ま い	上尾地区	46	11.1％	平方地区	9	2.2％
		原市地区	17	4.1％	大石地区	85	20.4％
		上平地区	43	10.3％	大谷地区	102	24.5％
		原市団地	5	1.2％	尾山台団地	1	0.2％
		西上尾第一団地	8	1.9％	西上尾第二団地	3	0.7％
		無回答・不明	97	23.3％			
	年 代	14歳以下	0	0.0％	15～17歳	4	1.0％
		18～29歳	21	5.0％	30～39歳	26	6.3％
		40～49歳	39	9.4％	50～59歳	55	13.2％
		60～64歳	36	8.7％	65歳～69歳	30	7.2％
		70～74歳	36	8.7％	75歳以上	165	39.7％
		無回答	4	1.0％			
	職 業	児童・生徒・学生	6	1.4％	会社員・公務員・団体職員	90	21.6％
		自営業	13	3.1％	農業	0	0.0％
		パート・アルバイト	87	20.9％	専業主婦（主夫）	69	16.6％
		無職	124	29.8％	その他	15	3.6％
		無回答	12	2.9％			

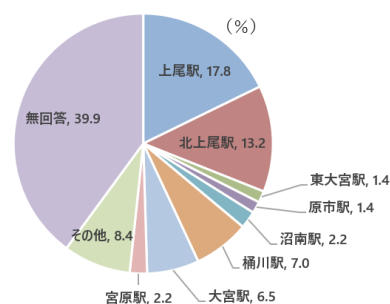
※構成比は小数点以下第2位を四捨五入しているため、合計値が100%とならない場合があります。

■よく利用する駅について（駅）

よく利用する駅



次によく利用する駅



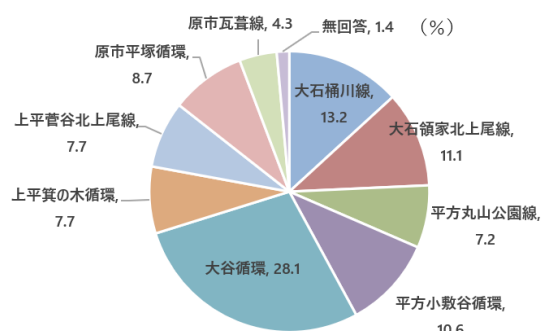
(2) 調査概要まとめ

①ぐるっとくんについて

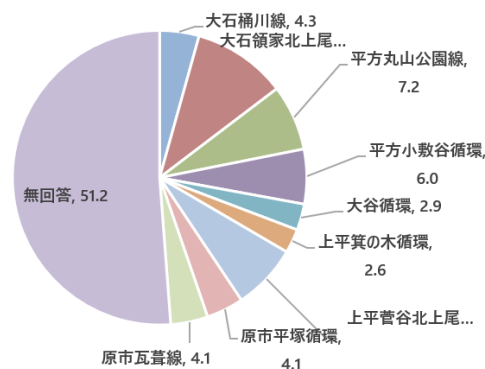
- 【よく利用する路線】「大谷循環」が28.1%と最も多く、次いで「大石桶川循環」と民間路線バスと並走していないエリアの利用が多くなっている。
- 【利用目的】「買い物」が46.9%と最も多く、頻度としても週1回以上の利用が7割を超えており、日常的な移動手段として選択されていることが推察できる。
また、利用頻度については「行き」は7-9時台が最も多く、「帰り」は18時台が最も多くなっている。
- 【目的地】「上尾駅周辺」「市内のぐるっとくんバス停周辺」の回答が多く、駅までの往復利用が多いことが推察できる。
- 【支払い方法】「現金」53.4%と最も多いが、令和7年4月以降のキャッシュレス化が浸透していないと推察できる。
- 【他交通機関への乗り継ぎ】「鉄道（JR、ニューシャトル）」が57.7%と最も多く、広域で移動していることが推察できる。

■よく利用するぐるっとくん路線について

よく利用する路線



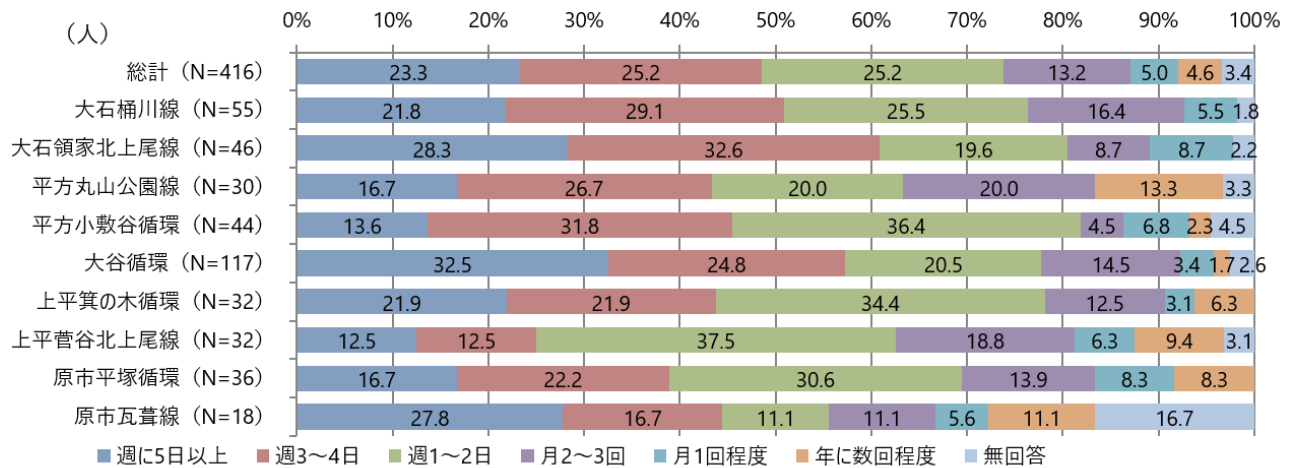
次によく利用する路線



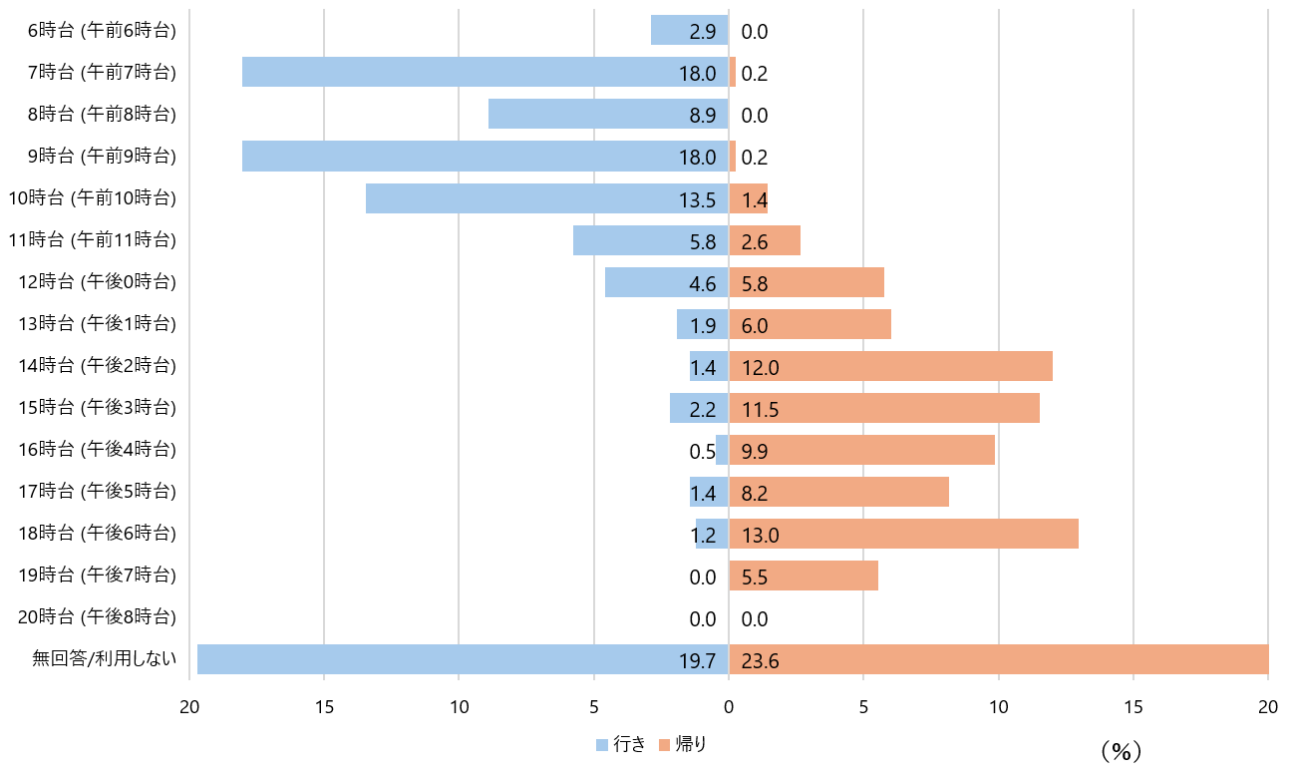
■利用目的



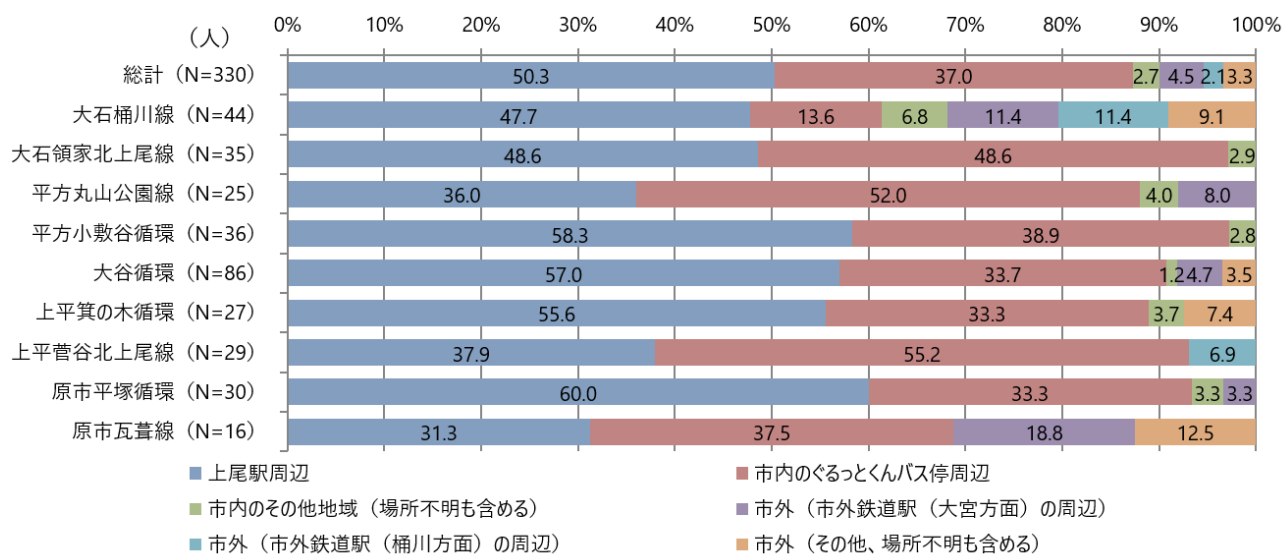
■利用頻度



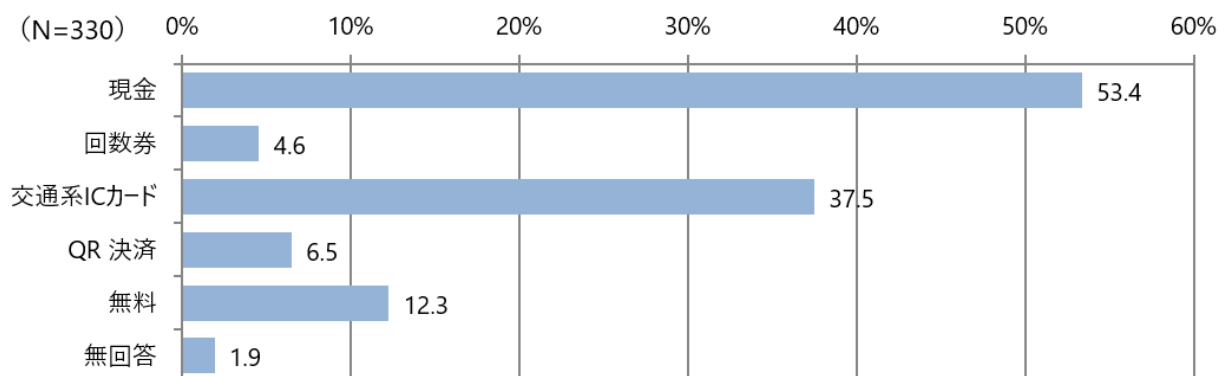
■利用時間帯



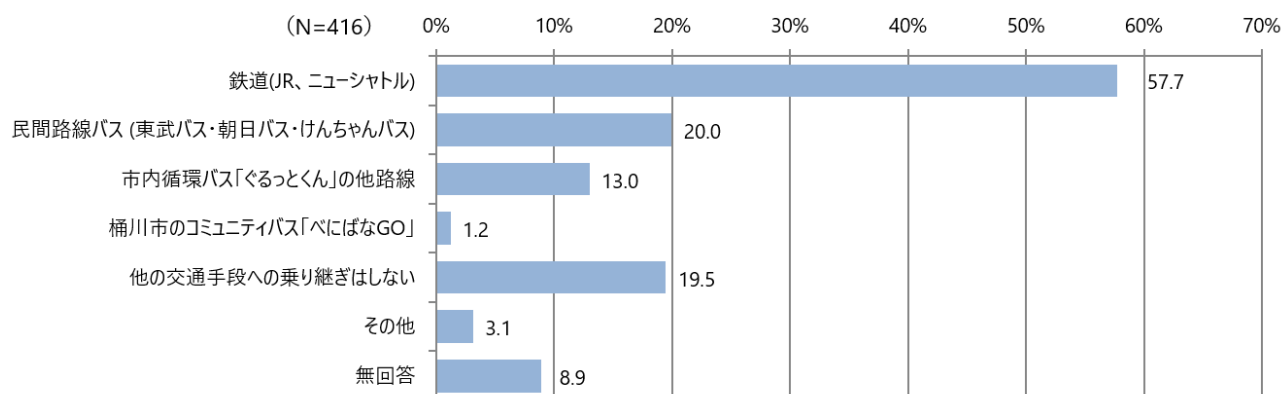
■主な目的地



■支払い方法



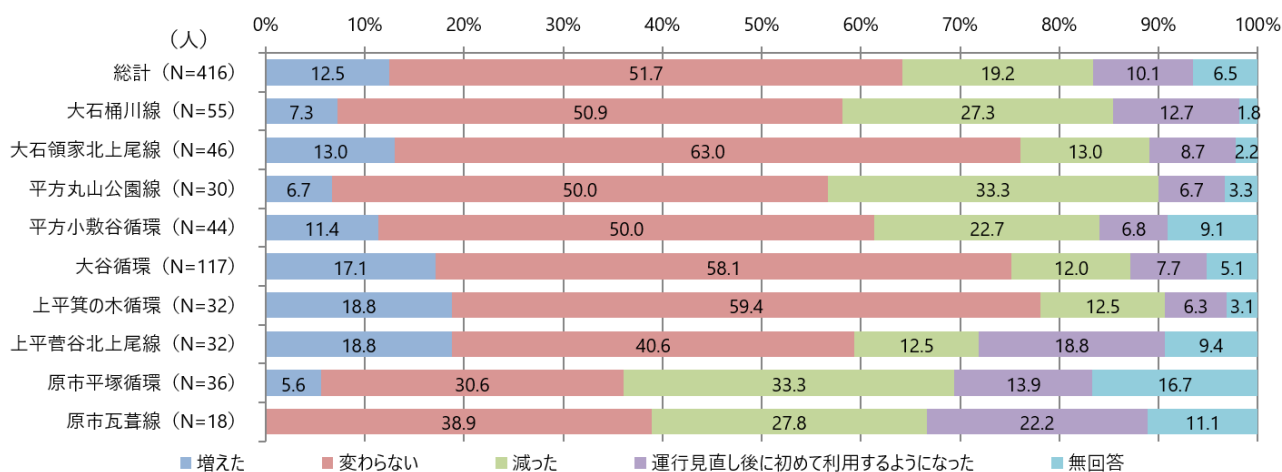
■乗継について



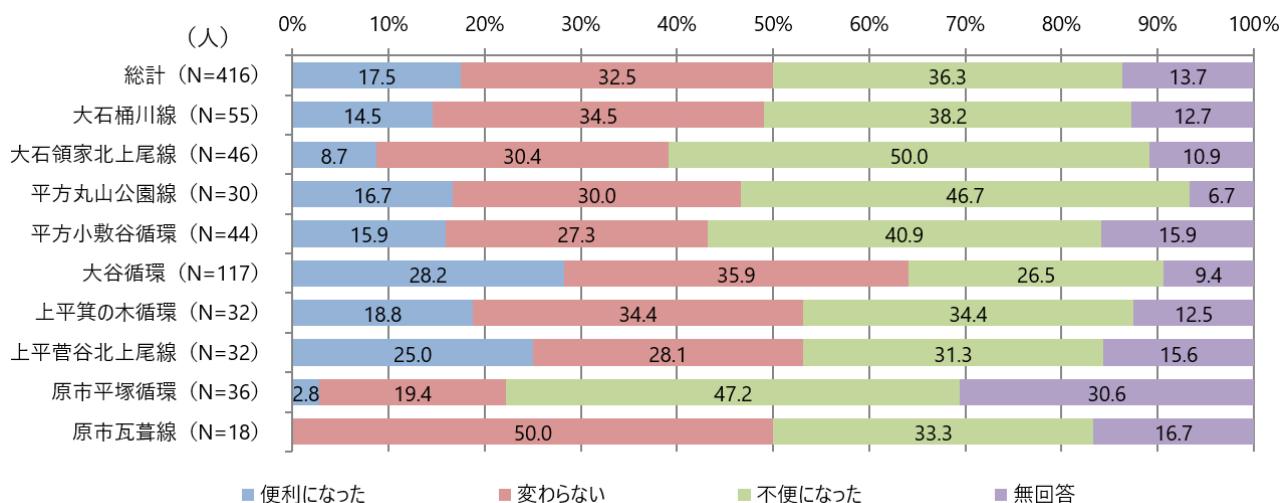
②ぐるっとくん運行見直しについて

- 【見直し後の利用頻度】「変わらない」と回答した方が51.7%と最も多いが、「大谷循環、上平箕の木循環、上平菅谷北上尾線」では「増えた」方が多く、「大石桶川線、平方丸山公園線、原市平塚循環」では「減った」割合が多い。
- 【利便性】「不便になった」の回答が51.7%と最も多い。
- 【便利になった理由】「便数の増加」などの回答が多く、その他の理由としては「ダイヤやバス停環境の改善」が挙げられた。
- 【不便になった理由】「利用したい時間に運行していない」「運行本数が少ない」との意見が多く、再編の必要性が示唆されている。その他の理由としては「乗り継ぎの問題、定期券や料金制度、車内環境改善」が挙げられた。
- 【今後の利用促進への取組み】「運行本数の増加」の回答が圧倒的に多くなっている。

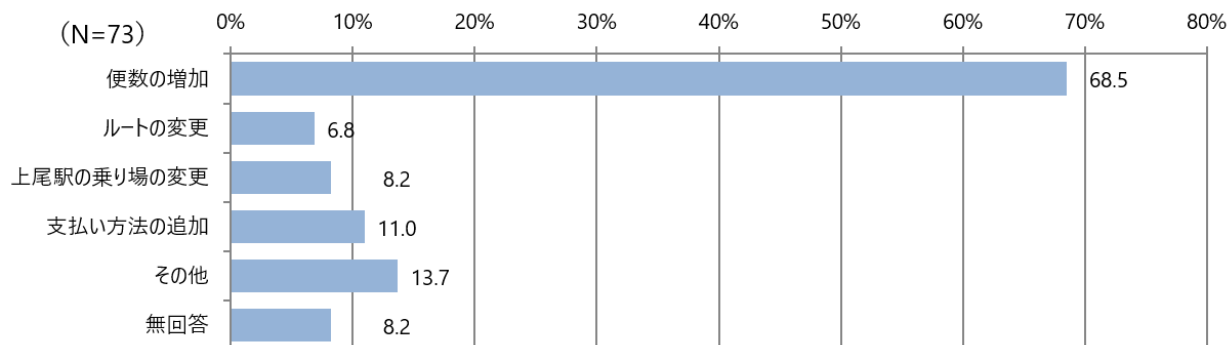
■利用頻度



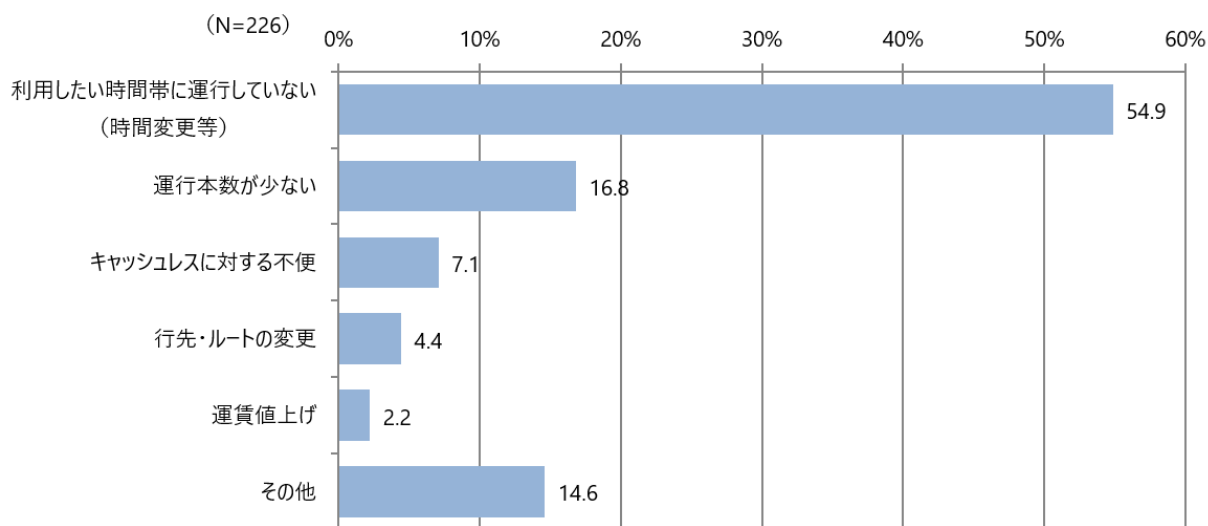
■利便性



■便利になった点



■不便になった点



■利用促進取組みで必要なもの

